

学校・家庭・地域連携協力推進事業等

実践事例集

【地域学校協働本部】



静岡県では、学校・家庭・地域の連携・協働による社会総がかりの教育を推進しています。

教育活動を進める県内市町の協力により、地域学校協働本部や放課後子供教室、家庭教育支援、通学合宿など地域ぐるみで子供を育む活動の実践事例集を作成しました。

地域の様々な活動の事例集を活用し、社会総がかりの教育体制の一層の充実を図ります。

地域学校協働本部

地域住民・団体が学校とともに、目標やビジョンを共有し、地域ぐるみで子供たちを育む緩やかなネットワークを構築。

放課後子供教室

放課後等の子供たちの安全・安心な居場所として、地域住民の参画を得て、多様な体験活動や地域住民との交流、学習機会を提供。

家庭教育支援

すべての親が安心して家庭教育を行えるよう、家庭教育支援員の養成や家庭教育支援チームの組織化、学校等との連携により、保護者への学習機会の提供や相談対応等を実施。

通学合宿

子供が自己を律しながら生きる力を育むとともに、地域の教育力の向上を図ることを目的として、異年齢の子どもたちによる共同生活を実施。

静岡県教育委員会

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 5 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	令和5年度に愛鷹中学校区学校運営協議会と地域学校協働本部を設置。子供たちが地域の行事に参加するだけでなく、運営にも関わること、子供たちの自主性の育成とまちづくり、地域住民との交流を深めたいと考えた。
--------	---

活動名	小中学生の地域イベント参加			
実施箇所名	あしたかコミュニティ広場等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	まちづくり 多世代交流		
	開催日数等	7/20(土)ほか	実施場所	愛鷹地区センター等
	参加児童・生徒数	39人	ボランティア数	20人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 愛鷹コミュニティ推進委員会企画委員会で、子供たちが地域の祭り等に来場するだけでなく、販売員や放送係・運営補助(体育大会)などスタッフの一員として活躍できるようにと立案した。 合わせて、祭りのキャッチコピーを小中学生から募集し、チラシに掲載したり表彰式を行ったりして、雰囲気盛り上げていった。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 祭りでは小学生が子供販売員としてコミ主催売店で販売活動をした。 中学生は、放送係を担当。各売店へのインタビューや案内を行った。体育大会では、放送係に加え進行補助やゲームの鬼役を担う。 活動の様子は、地域広報誌「あしたかニュース」に載せ、全戸配布している。 			
	連携先	愛鷹地区コミュニティ推進委員会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 祭りに参加した子供たち全員が「楽しかった」と答えた。「接客ができて、愛鷹地区の人たちと関わってよかった」「これからの職業についていろいろ学べたのでよかった」等の感想を得た。 祭りで活躍する子供たちの姿が随所で見られ、新鮮だった。 子供たちとスタッフ間で親しみが生まれ、前年から参加の子供たちと顔見知りになった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの意見を聞き、祭りの計画や運営にも反映できる仕組みを考えたい。 学校を通しての募集のため、教職員の負担となることもある。 小中学生だけでなく、今後地元の高校生の参加も呼びかける工夫をしていきたい。 			
備考				

参考URL	あしたかニュース https://ashitakanews.jimdofree.com/
-------	--

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和5年度
--------	-------

立ち上げ経緯	夏休みに、子どもたちが勉強したり、本を読んだり、調べ学習をしたりする場として「図書館(図書室)」を開放し、活用することを計画した。そこに集う子どもたちの、見守りと学習支援をボランティア等で取り組む態勢を整え、令和5年度に引き続いて実施している。
--------	--

活動名	原東小 夏休み「図書館(図書室)に行こう大作戦」			
実施箇所名	沼津市立原東小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	7/24~8/1の7日間	実施場所	原東小 図書室
	参加児童・生徒数	延べ165人	ボランティア数	15人の中から対応
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休み開始に合わせて、エアコンで快適な時間を過ごせる「図書館(図書室)」を、子どもたちの学習や読書の場として活用する取り組み。 子どもたちの活動の見守りと学習支援のため、ボランティアの協力を得て実施している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の名所や歴史などを聴く機会も設けた。 自由研究や調べ学習のため、図書室内の本の紹介も行った。 			
	連携先	地域学校協働本部、地域ボランティア、教員OB、大学生		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み開始時期に実施することで、夏季課題に取り組む子どもたちが多く、夏休みの良いスタート作りにつながっている。 運営に関し、地域ボランティアだけではなく、教育実習生や卒業生も参加し、幅広い年齢層の交流の場ともなっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加する子どもたちやボランティアの拡大を図るため、取り組みの周知やPRを工夫したい。 地域学校協働の活動として、子どもたちの学びを支援し、学校を核として地域づくりの流れにつなげていきたい。 			
備考	実施日詳細：7/24、25、26、29、30、31、8/1 の7日間 参考URL内のカレンダーで、こちらの日程を選択すると活動の様子がご覧になれます。			

参考URL	https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu024/weblog
-------	---

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	本地区で実施している各種「こども場所づくり」の一環として第五中学校の生徒を対象とした「たではら塾」を立ち上げた。これは学校運営協議会のグランドデザインを具現化するための要請と放課後自由に自主学習する場所が欲しいという生徒の希望に沿った地域活動であり、地域総がかりで子どもを育てる場として設定した。
--------	--

活動名	たではら塾			
実施箇所名	第五地区センター			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、居場所づくり		
	開催日数等	夏季・冬季10日	実施場所	地区センター会議室
	参加児童・生徒数	50 人	ボランティア数	40 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部の企画により「たではら塾」を夏季と冬季講習として各5日ずつ年間2回実施している。夏季講習は基礎学習及び夏休みの課題、冬季講座は年度末試験に向けた学習に設定。学習教材は中学校提供のプリントと地域学校協働本部作成のものを基本としている。学習支援者は学区在住の元教員、地域住民と高校生ボランティア等である。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 本地区は比較的多くの学校がある文教地区の一つである。この地域特性を生かし、高校生ボランティア等を中心に学習支援を依頼している。 子どもたちの自主学習と学び合いの場所を提供することからスタートした原点を大切に、課題解決のための学習支援を丁寧に行っている。 中学校・高校の担当者と学習計画につき綿密な連絡を取っている。 			
	連携先	第五地区コミュニティ推進委員会、自治会、第五地区の高等学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域の多様な知識や経験のある大人や高校生が学習支援をすることにより、基礎学力定着の支援やコミュニケーション能力、豊かな人間性の形成を図っていく仕組みづくりに資する活動になっている。 本事業はそれぞれの子どもにとって自主学習や教え合いの場として定着しており、休憩時間に生徒間で高校生活や資格取得、進路などに言及するなど子ども居場所づくりとしても成果が上がっていると言える。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> たではら塾の年間実施日数を増やしてほしいとの声があるが、実績と実施期間がまだ浅く学習支援者の開発や組織作りの充実が急務である。 現在、学習支援者に高校生ボランティアをお願いしているが、地域総がかりで子どもを育てるという視点ではより多くの高校にお願いしたり地域の人材資源発掘に努めたりすることが肝要である。そのためには日頃のコミュニティ活動を通じた信頼関係の構築が必須と考えている。 			
備考	沼津市第五地区：沼津市立第五中学校区で、小学校2校、中学校1校、高校5校、特別支援学校2校、大学1校、付属初等部1校、付属中学部1校			

参考URL	https://dai5komi.com/index.html
-------	---

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 「学校を好きになってほしい」「楽しい学校にしたい」「子供たちに笑顔になってほしい」などの願いをもとに、楽しい活動を地域の人と関わって行うことから活動が始まった。様々な活動を企画・運営している。

活動名	放課後学習支援			
実施箇所名	三島市立東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が放課後に学習することを見守る。 ・学習後にゲーム等で異学年交流をして楽しい時間を過ごす。 		
	開催日数等	2日	実施場所	教室・体育館
	参加児童・生徒数	96人	ボランティア数	11人
	<概要・特徴>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が放課後に集合場所にて宿題などの学習することを見守る。 ・体育館にてゲーム等をして異学年交流をして楽しむ 		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ・9月開催時は、気温が高く、人数が多かったので、学習時にエアコンが効いた教室を使用した。 ・学習している間に体育館にて準備を行った。異なる遊びをができるよう分散してゲームを行い、最後に全員で行うゲームをして異学年交流が楽しめるようにした。 ・9月と1月に実施したが、異なるゲームを実施して飽きない工夫をした。 		
連携先				
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年が多く参加し、喜んで活動してた。特に1年生は2回共参加した児童も多かった。 ・落ち着いて集中して学習することができた。その後思い切り遊ぶことができ、楽しい時間を過ごせた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目は9月に実施したが、残暑が厳しく、熱中症が心配であった。 ・児童人数に対し、ボランティアの人数がもう少しほしい。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯

西小学校「学校支援地域本部実行委員会」の中で、学校からの依頼を受け、外国籍児童の学習のサポートをすることになった。西小学校区には地域ボランティアさんがたくさんいるため、その方々を活用し、少人数で学習支援を行おうと考え実施していたが、2年後からは外国籍児童に限定せず、今のような形になった。

活動名	放課後学習支援			
実施箇所名	西小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	年間26回 月・金	実施場所	会議室
	参加児童・生徒数	37 人	ボランティア数	15 人
	<p><概要・特徴> 元教員・地域のボランティアによる学習のサポートを目的とし、放課後、学校で宿題のプリントやドリルをしたり、音読や九九などを聞いてもらったりする。</p> <p><活動上の工夫> ・対象を2～5年生とし、6時間目のない月曜日と金曜日に時間を設定している。終了時刻が6時間目がある日とほぼ同じになるため、冬場でも明るいうちに下校することができる。 ・月曜日と金曜日の2グループに分けることで、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。</p>			
	連携先	地域学校協働本部		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で支援をしたことで、個別の支援を適切なタイミングで行うことができ、子供たちの意欲向上につながっている。 ・児童が、ボランティアの方と関わることで、コミュニケーション能力や自己肯定感が高まっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット学習が進む中で、今後、学習内容や学習の仕方（タブレットor紙媒体）の工夫が必要になってくる。 ・自分から意欲をもって参加している児童は成果が上がっているが、保護者の意向で参加している児童の学習への取り組み方に課題が見られる。 			
備考				

参考URL

西小学校ブログ <https://schit.net/mishima/nishi-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯

以前より「放課後学習教室」は実施していた。授業のない金曜日の6時間目に参加したい児童を集めて宿題を見守るという活動であったが、参加者も少なく、活気がなかったため、もう少し子供たちの学習の手助けとなったり、安心できる居場所となったりするような放課後学習教室を作りたいという経緯で現在の形に変え、実施することとした。

活動名	放課後学習教室			
実施箇所名	三島市立南小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、居場所づくり		
	開催日数等	木曜日 6時間目	実施場所	パソコン室・会議室
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	20 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 南小地域学校協働本部実行委員(373サポーターズ)の企画立案により、地域や保護者、学生からボランティアを募り、3年生の算数の学習をサポート(補習)するための放課後学習教室を年14回開いている。 子供たちは1冊ずつファイルが用意され、自分のペースで算数のプリント学習を進め、分からないところをボランティアさんに聞いたり、丸を付けてもらったりしている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 木曜日の6時間目に設定し、その時間に授業のない3年生を対象とした。 回覧板やデータ配信を通して、地域住民や保護者にも広くボランティア募集をしている。 三島市の寺子屋事業ともタイアップし、学生を派遣してもらうことで、子供の学びも充実している。 学校ブログにも活動の様子を載せ、情報を発信している。 持続可能な活動にしていくために、ボランティアの方も児童も参加に関しては決して強制はせず、自由意志を尊重している。 			
	連携先	373サポーターズ、ボランティアの皆様、学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 373サポーターズの活動として定着しており、地域の方の中には、この活動を楽しみにしてくださっている方もいる。中には放課後学習教室だけではなく、他のボランティアと掛け持ちをして南小の子供たちのためにサポートをしてくださっている方もいて、地域の方々との連携がより深まっている。 3年生の児童にとって、「友達やボランティアさんと楽しく算数を学習する場」となっており、新しい形で活動を始めて2年目となるが、昨年度も今年度も参加者が約30人(学年の40%)と大盛況である。また、地域の方々と触れあう場面は貴重な体験であるため、地域と学校を繋ぐ質の高い活動となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 3年生以外の学級担任には活動内容が見えにくいため、どんな活動をしているのか校内でも周知していく必要がある。また、3年部とも連携を図り、より理解を深めてほしい内容は手厚くサポートする、個別に支援が必要な子へはその子にあった教材を用意するなど、工夫をしていきたい。 			
備考				

参考URL

南小学校ブログ <https://schit.net/mishima/minami-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯

活動名	図書室応援隊			
実施箇所名	三島市立北小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	20	実施場所	図書室
	参加児童・生徒数	576 人	ボランティア数	8 人
	<p><概要・特徴> 保護者や地域の方で構成されている図書室整備ボランティア「図書室応援隊」は、月に1～2回程度、図書室の掲示物の飾り付けや本の整理の手伝いをしている。</p> <p><活動上の工夫> ・学校とボランティア代表者が連携し、活動日や活動内容の連絡は、学校から「連絡メール」を使って配信し、代表者の負担が軽くなるようにしている。 ・掲示物を作成する際、子供たちにアンケートを実施して、その結果を掲示するなど、子供とも関わりを持ちながら活動している。</p>			
	連携先	北っ子サポーター実行委員会、学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方々が、毎月季節に合わせた掲示・飾り付けをしてくれるので、子供の目を引き、図書室に足を運びたくなるような環境になっている。 ・掲示の中でお薦めの本を紹介するなど、本との出会いの場を提供することができている。 			
課題等	・ボランティアの人数が減ってきているため、ボランティアの人数を確保することが課題である。			
備考				

参考URL

北小学校HP <https://schit.net/mishima/kita-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 14 年度

立ち上げ経緯 三島市スクールガード事業より地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備し、安全で安心できる学校を確立させるため、地域から募集し集まったメンバーにより現在も毎朝小中学校生の登下校の見守りが行われている。

活動名	スクールガード			
実施箇所名	錦田小学区(18カ所)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	登下校時の見守り活動通学路の点検と改善		
	開催日数等	小学校授業日	実施場所	学区の危険箇所
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	20 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・錦田小PTCA(地域学校協働活動)の一つに位置づけられています。子供たちが学校に通う日は毎日登校を見守ってくださっています。登下校だけでなく、1年生の交通安全教室、6年生の交通安全リーダーと語る会にも参加していただき、安全な登下校について地域の方も一緒に大切さを話していただきます。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守りだけでなく、通学路の点検や改善のための検討も行ってくださっています。 ・6年生が行う交通安全リーダーと語る会に参加していただき、地域の交通安全について考えてくださいます。ここで出た話については、地域と連携を取り、改善できるように市に働きかけてくださいます。 			
	連携先	自治会、公民館、ソクラブ、読み聞かせボランティア、企業、他学校等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが安心して登校できるようになっています。毎日顔を合わせるのを楽しみに登校している子供もいました。また、交通安全教室等、学校が協力をお願いをすると、快く引き受けてくださり、子供たちも顔見知りの方が近くにいる安心感があります。 ・通学路の点検も積極的に行ってください、安全な通学路の確保につながっています。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の中には、道路幅だけでなく、歩道の幅も狭い場所も少なくなく、朝夕は通勤の自動車やバイク、自転車などが多いため、児童の通学の安全確保には、スクールガードの活動が欠かせない状況であります。しかし、ボランティアの高年齢化に伴い、人数の確保が難しいことが挙げられています。ボランティアの輪を広げていくことが課題と考えています。 			
備考	日頃お世話になっているスクールガードの皆さんに感謝の気持ちを伝える会を3月に実施します。今までは、オンライン形式の集会で行っていましたが、令和6年度は、体育館で集合形式の会に変更し、直接顔の見える形で感謝の気持ちを伝えます。			

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 年度

立ち上げ経緯

活動名	スクールガード			
実施箇所名	徳倉小学校区内の通学路			
活動の概要・特徴・工夫	目的	登下校時の安全指導および見守り		
	開催日数等	203日(授業日)	実施場所	通学路
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	21人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 横断歩道を中心に通学路の危険箇所立ち、安全指導・見守りの実施 1年生の交通教室補助 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> スクールガード、PTA、三島市教育委員会、交番、学校と危険箇所の情報共有をすることで、登下校時の児童の安全性を高められるようにしている。 運動会などの行事にも招待し、児童との交流を深めている。 			
	連携先	徳倉小学校スクールガード、徳倉小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中の事故0 児童、保護者の交通安全への意識の向上 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今後、高齢化することによる人員の確保 			
備考	年度初めに引取訓練において保護者にスクールガードの紹介をしたり、年度末に児童からお礼の手紙を書いたりするなどしている。			

参考URL

https://schit.net/mishima/tokura-e/blogs/blog_entries/view/48/30b56354ffff43f0769dd46f77803bdc?frame_id=76

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯

坂小学校は、平成13年度ごろから、坂地区活性化委員会と連携しながら、子どもを地域で育ててきた。平成26年度から学校支援地域本部として、箱根西麓に位置する坂地区の「地の利を利用した農事活動」に力を入れ、地元農家さんの協力の下、遊休農地を有効利用し、「作物を育て、収穫し、食したり、販売したり」する農事活動を行うようになった。令和2年度から地域学校協働本部となった。

活動名	農事体験			
実施箇所名	坂小学校(坂っ子農園)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の特色を生かした農事体験活動		
	開催日数等	年10~15回程度	実施場所	坂っ子農園(坂小学校)
	参加児童・生徒数	63人	ボランティア数	15(延べ120)人
	<p><概要・特徴></p> <p>地域の方から畑(遊休農地を有効利用)を借り、様々な農事体験に取り組んでいる。年間を通して、多種多様な作物(ジャガイモ・スイカ・トウモロコシ・大根・ブロッコリー等)を育てる活動している。自分たちで育てた野菜を収穫し、給食に使用したり、家庭に持ち帰ったりして食べるなど「食育」にもつながっている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫した野菜は給食の材料に使用されるとともに、保護者等への販売体験も行い、収入は次年度の費用としている。 ・効率よく育てるための方法や苦勞を教えてもらうことで、食べ物を大切にすることを高めるようにしている。(食育の充実) ・家庭科の授業・クラブ活動・自然教室等の調理実習にも活用している。 			
	連携先	坂小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・坂地区の特色を生かした活動として、地域の方々、保護者と連携した教育活動の場となっている。(地域の絆づくりとなっている) ・野菜を育てて収穫するだけでなく、目的をもって販売体験まで行うことで、キャリア教育にもつながっている。 ・地域(身近)の大人と触れ合う機会が増え、多様な体験・経験の機会が増えるとともに、人間関係力の向上につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・土作りを行うなど、児童が活動を行うにあたって、事前準備を行う必要がある(事前準備に時間がかかる)。 ・多くのボランティアの方々の参加、指導は欠かせない。日程調整が必要になってくる。 ・コーディネーターや実行委員が高年齢化し、人材育成(後継者の育成)が課題となっている。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 地域の子どもたちや小学校のためにできる活動を実施したいという考えから発足された。自身の子どもが卒業しても支援を続けたいというPTA運営委員経験者やおやじの会と連携しながら、徐々に活動を広げていった。

活動名	職業講話			
実施箇所名	三島市立佐野小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(キャリア教育の一環として)、地域の人材活用		
	開催日数等	11月27日	実施場所	教室・少人数教室・パソコン教室
	参加児童・生徒数	21人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴> キャリア教育の一環として、地域で活躍する大人に職業についての講話を依頼している。「職業」という観点を通しながら、めあてや目標に向かってよりよい方法を模索しようとする生き方についての話題に広がりを見せている。保護者でも教職員でもない地域に住む身近な大人から、夢や目標達成についての話を聞けるため、支援をお願いした。</p> <p><活動上の工夫> ・3名の講師による講話により、複数の職業の話を知ることができる。 ・3人の講師に3回の講話をお願いし、児童も3グループに分かれて活動したので、講師全員の話を知ることができる。</p>			
	連携先	学校支援ボランティア		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 児童は関心をもって話を聞くことができ、これからの自分の夢や目標の達成に向けて、前向きに捉えることができた。 職業についての話だけではなく、人との関わり方や見方・考え方についての幅広い話を聞くことができた。そのため、児童も真剣に自身の生き方について考えようとすることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアと指導者との事前打合せを実施することが難しい。 ボランティア同士も互いの講話内容について知りたいという要望があるが、時間や場の設定が難しい。 ボランティアとして参加していただける講師の裾野が広がっていかない。 			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯

平成27年度に中郷小学校支援地域本部(現 中郷小地域学校協働本部)が立ち上がった。これまで、読み聞かせが活動の中心であったが、校内の美化が子どもたちの学習環境・生活環境の向上につながるという保護者からの声をうけて令和6年度に本ボランティアを立ち上げた。

活動名	環境整備ボランティア			
実施箇所名	三島市立中郷小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校美化		
	開催日数等	月2回	実施場所	校舎敷地内
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	15人
	<p><概要・特徴> 地域学校協働本部が前年度中に保護者にはFormsによるアンケート、地域には回覧板や学校行事の際の配布などで登録者の募集をした。当初は、トイレ清掃が主であったが、冬季には落ち葉掃きを行うなど、その時々に応じた活動を行った。</p> <p><活動上の工夫> ・活動時間を午後に設定し、作業終了と児童の下校時刻を合わせることで、親子で下校をする事も可能となるようにした。 ・事前に参加の可否の確認をする事なく当日に参加いただいた方で活動した。「できるときに」「できる範囲で」の思いのもと、活動が負担とならないようにしている。</p>			
	連携先	地域学校協働本部(中郷小学校)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の清掃活動では不十分となる点を補っていただいていることで、子どもたちは、トイレを気持ちよく使うことができている。 ・授業時間中の活動のため、ボランティアの方々にとって、学校の様子や子どもの様子を見て知ることができる機会となった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ清掃から始まった活動だが、環境整備を依頼したい場所が多かったり、子どもが行う清掃では不十分になってしまう場所があったりする。校内美化を推進していく上で、ボランティアの方を増やしたり、子どもたちには学校施設をきれいに丁寧に使おうとする意識を高めたりする働きかけをしていきたい。 ・清掃時間と重なることで、子どもたちがボランティアの方々から、より効果的な清掃方法を学ぶ機会を得られるのではないかと考えられる。今後、検討をしていきたい。 			
備考				

参考URL

<https://schit.net/mishima/nakazato-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯 沢地小スクールガードは、「地域学校協働本部」の前身である「学校支援地域本部」が平成26年に発足する前から活動を開始、令和6年のdで20年目となる。現在、登録されている方は18名、そのうち14名は10年以上継続して活動している。

活動名	子供見守り活動「スクールガード」			
実施箇所名	三島市立沢地小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	平日	実施場所	校区の通学路
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	18 人
	<p><概要・特徴> 児童の登下校の時間帯に合わせ、通学路の危険箇所に立ったり、登下校と一緒に付き添ったりして、児童の安全を見守っている。</p> <p><活動上の工夫> 本校の地域学校協働本部は、活動内容によって「学習支援」・「環境整備」・「子供見守り活動」の3つに分けられている。上述の活動は、その中の「子供見守り活動」を担当する方々が行っている。 ・交通安全や防犯のためだけでなく、児童の「心の健康」のために、元気なあいさつができる子供の育成にも力を注いでいる。 ・学校の年間計画の中に「スクールガード紹介の会」や「スクールガード感謝の会」を位置付けたり、「交通安全を語る会」に参加していただいたりするなど、児童とスクールガードの方々との交流を大切にしている。</p>			
	連携先	地域学校協働本部「かわせみ実行委員会」		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、安全、安心に登下校することができている。 スクールガードの方との挨拶や会話を通して、子どもたちが地域の方とつながりを持てるようになっている。 学校と地域で連携して、子どもたちの様子を把握することができる。 保護者からもスクールガードの方がいるおかげで、安心して学校へ送り出すことができるとよく話を聞く。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が長年間スクールガードを務めてくださっているが、高齢化してきているため、将来の活動に不安がある。新規のメンバーが入らない。 			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 学校側の「子どもに様々な体験をさせたい。外部から講師を招いた活動を行いたい。」という願いを知った協働活動推進員からの発案で事業をスタートした。協働活動推進員がもつ緩やかなネットワークによって講師を確保、令和5年度に実現した。

活動名	「キャリア講座」			
実施箇所名	三島市立向山小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	6年生児童のキャリア教育		
	開催日数等	12月4日(水)	実施場所	各教室
	参加児童・生徒数	91 人	ボランティア数	20 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> この「キャリア講座」は令和5年度から始まった。6年生を対象に、消防士やホテルマン、警察官などさまざまな職種の方が、働くことの大切さややりがいについてお話しくださり、6年生が自分の将来について考えるきっかけとなっている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 本活動が無理なく永年に渡って継続していけるよう、実行委員も含め、参加に際して決して強制はせず、自由意志を尊重している。 キャリア講座の実施にあたっては、6年生の児童がなるべく広い視野で自分の将来について考えられるよう、多くの職種の方に講師を依頼している。 			
	連携先	三島市内・近隣の各企業等		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな方面のプロの方から間近で、直接お話をうかがうことで、いろいろな職業に興味をもち、キャリアについての意識が高まった。 6年生の素直な態度や熱心な姿勢に講師を引き受けてくださった方々がやりがいを感じ、次年度のキャリア講座への参加をほとんどの方が引き受けてくださっている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> この講座が今後も長く続けられるよう、コーディネーターと講師の方々とのパイプづくりが必要。 今回は講師1人および2人につき特別教室を1部屋使用したが、他の学年も使用することが考えられるため、6年生を優先した会場の確保が必要となる。 			
備考				

参考URL <https://schit.net/mishima/mukaiyama-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 地域学校協働本部が立ち上がる前から図書ボランティア「ウォームハート」が、読み聞かせ等の活動を行っていた。平成27年度に演劇公演を開始した。

活動名	図書ボランティアによる演劇(人形劇)			
実施箇所名	三島市立北上小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	児童へ観劇体験を提供すること		
	開催日数等	2日	実施場所	北上小学校体育館
	参加児童・生徒数	350人	ボランティア数	12人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア有志による演劇・人形劇。 ・新型コロナウイルス感染症により2年間中断していたが、令和4年度は感染拡大防止対策を講じて実施。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの活動場所を校内に確保し、ボランティアの人たちが活動しやすいようにした。 ・演劇関係の物品を収納する場所を設けた。 			
	連携先	図書ボランティア「ウォームハート」		
活動の成果	<p>・舞台装置、ペープサート、小道具まで本格的な公演を行い、子供たちに大きな感動を届けた。来年も楽しみにしている子供が多く見られた。</p> <p>H30年度「ふしぎなかさやさん」 R元年度「ニャーゴ」 R4年度「おあがりやすサンタクロース」 R5年度「ことわざ」 R6年度「おれのおかん」</p>			
課題等	<p>・新型コロナウイルス感染症により活動ができない期間があった影響も有り、ボランティアの人数が減少し、新規での加入があまりない。新規での人材確保が課題である。</p>			
備考				

参考URL

<https://schit.net/mishima/kitaue-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 ・学校支援として3つの事業「スクールガード」「花壇ボランティア」「放課後学習」を立ち上げた。「放課後学習」は学習を通して地域の方との交流を図るという目的である。

活動名	放課後学習			
実施箇所名	三島市立山田小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援・地域の人材育成		
	開催日数等	週1回・年間14回	実施場所	山田小 第1音楽室
	参加児童・生徒数	26人	ボランティア数	15人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数が難しくなったと感じている3年生の希望者を対象に、ボランティアの支援を受け「分かる！できる！楽しい！」を実感しながら学習する経験を積むこと、基礎学力、計算力の向上を目指すことを目的に実施している。 ・参加する子供の下校時の安全確保のため、実施時間は木曜日の6校時に固定し、終了時刻が4～6年生の下校時刻と同じになるように設定している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供2人でチームを組み、各チームに1人もしくは2人担当のボランティアをつける形式で実施。マンツーマンに近い形での支援が可能となり、きめ細やかに子供の様子に合わせた支援を実施でき、子供の集中力や学習意欲を高められるようにする。 ・教材は、該当学年の躓きやすい単元を中心に学習プリントを作成。約70枚のプリントをファイルにまとめておき、子供とボランティア（解答付き）に配布。どこから学習を始めてもよく、また、各自のペースで進めてもよいことにしている。また、担当ボランティアと相談し、苦手単元の内容に取り組む子もいる。ファイルに綴じ込んだ頑張りカードに、ご褒美シールを貼ることで学習進度を確認できるようにする。 			
	連携先	放課後学習コーディネーター、地域学校協働本部コーディネーター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは、自分の担当ボランティアが決まっていることで安心して学習に臨み、学習意欲が持続した。きめ細やかな支援を受けることで理解が深まり、算数学習に対する自信が付き、積極的に学習するようになったと保護者も我が子の変化を感じている。 ・学校行事（山田っ子学習祭、6年生を送る会）や学年行事等に招待し、交流を図っている。子供たちの学校での様子を伝えることにもつながっている。 ・ボランティアの方々も、行事や農事体験活動等の手伝いも引き受けるなど、学校の教育活動に対して協力的である。地域で温かく子供たちを見守ろうという雰囲気がさらに広がっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の時間割編製の段階から、この放課後学習の活動場所や学校担当者の授業出入りを調整しておく必要がある。 			
備考				

参考URL 山田小ブログ <https://schit.net/mishima/yamada-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯

活動名	長伏っ子サポーター作業(下草刈り・落ち葉掃き等環境整備)			
実施箇所名	長伏小学校グラウンド・中庭・花壇等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	(例: 学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	開催日数等	年4回	実施場所	長伏小グラウンド・中庭・花壇
	参加児童・生徒数	延40人	ボランティア数	延150人
	<p><概要・特徴>本校は敷地が広く、古く大きな樹木も多い。用務員や担当教員のみでは草木や花壇の手入れも行き届かない。夏季には古木の枝打ち、道路に張り出した樹木の剪定やグラウンドにまで浸食した草を除去する作業、伸びた草を刈る作業を行い、冬季には大量の落ち葉の除去を中心に活動した。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍手や草刈りの器具、熱中症予防の水分を用意。 ・作業用燃料(混合ガソリン)を予算で購入。 ・チップパーで剪定した樹木はチップ化し 校舎付近の通路に撒いた。 			
	連携先	地域学校協働本部(長伏っ子サポーター)、PTA、自治会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回作業はPTAと連携して行えた。 ・複数年実施を続けているため、活動を熟知している方が多く、学校の負担が少なく、作業が効率的に行われる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の年配の方が多数参加して下さる一方、猛暑の影響で子どもの参加を制限したこともあり、保護者世代の参加が少ない。 ・気をつけて作業を進めてくださっているものの、大きな樹木の手入れや高所作業での怪我、熱中症等が心配。 ・新メンバーが、なかなか入らない。 			
備考				

参考URL https://schit.net/mishima/nagabuse-e/blogs/blog_entries/year_month/67/year_month:2024-09?frame_id=90

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	○



実施開始年度 平成21年度

立ち上げ経緯

未来を担う子供達を健やかに育むためには、学校、地域、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子供達を育む体制作りが不可欠であると考え、平成21年度に三島市の先陣を切って設立した。

活動名	職業講話・職場体験・未来講座・松並木清掃			
実施箇所名	三島市立錦田中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学びと将来の繋がりを意識することで目標をえがき、今できることを考える生徒の育成		
	開催日数等	1日・2日・1日・5日	実施場所	主に学区内
	参加児童・生徒数	119・118・124・150 人	ボランティア数	のべ80人
	<p><概要・特徴> 各学年で計画しているキャリア教育を進めていく上で、「講師」や「受入事業所」が必要になる。その人材確保を、地元の人や事業所と幅広いつながりがある地域学校協働本部の委員の方々をお願いしている。先方との連絡、調整も支援していただいている。</p> <p><活動上の工夫> ・早い段階で学校からの要望を地域学校協働本部に伝える。 ・講師については、職種の多様性を確保できるように依頼する。 ・活動内容や生徒のあらわれを地域学校協働本部委員会で報告し、成果と課題点について話し合う。</p>			
	連携先	地域学校協働本部実行委員・事業所・サポーターズクラブ		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちにとって「自分の生き方と社会との関わり」「今自分ができることは何か」を考える場になった。 ・地域(の方々)にとっても「職業人としてどのように社会貢献したらよいのか」「地域が子供たちをどのように育てていったらよいのか」を考える機会になった、との意見をいただいた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代の時期を迎え、委員の募集が難しい。 ・地域学校協働本部にどこまでサポートしていただくかを確認することが大切である。 			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 24 年度

立ち上げ経緯

普通学校に足を運ぶ機会が少ない保護者や地域の方々にご参加いただくことで、災害時の助け合いや地域の治安向上を促すことを目的として、生徒・保護者・教職員そして地域住民が、地域奉仕を通じて交流する場を作ろうと、平成24年度から、夏休み前と卒業式前の年2回開催しています。また、令和5年度からはPTAと共催という形で実施しています。

活動名	『通学路をキラリ！大作戦』			
実施箇所名	三島市立南中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援・地域奉仕		
	開催日数等	7月13日(土)	実施場所	学区全域
	参加児童・生徒数	152人	ボランティア数	37人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・南中地域学校協働本部実行委員(南ライオンズ：通称MLS)とPTA本部役員との企画立案により、学校、地域一体となって交流、活動する取り組みとして年間2回、実施している。学校、地域に参加を呼びかけ、MLSとPTA本部役員が準備から当日の運営まですべて行い、参加者が一緒になって、校区内の美化活動を通して共に汗を流している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にブログでも案内して、保護者、地域の住民にも広く周知している。 ・本活動が無理なく永年に渡って継続していけるよう、スタッフも含め、参加に際して決して強制はせず、自由意志を尊重している。 ・参加した生徒には、MLS委員長より「ボランティア参加証明書」を発行し、学校で校外活動として認めている。 			
	連携先	学区の各自治会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・南中地域学校協働本部、PTAの活動として定着しており、地域の方々の中には、この活動を楽しみにして下さっている方もいる。活動のノウハウが蓄積され、地域の方々との連携がより深まった事業となっている。 ・生徒にとって、地域の方々と触れあう場面は貴重な体験であるため、この事業を有効に活用でき、質の高い活動となっている。また、自分たちの暮らす地域に目を向ける格好の場ともなっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒が参加できるよう、部活動の大会等と重ならないよう日程を調整する必要がある。また、今後さらに保護者の参加数を増えるよう、その方法を模索している。 ・参加者の活動に対する意欲が大変高く、現在の活動時間(準備片付け含め1時間程度)を見直し、活動時間を延ばしていくことも考えていきたい。 			
備考	※今年度、3月8日(土)に第2回のキラリ大作戦を予定している。			

参考URL

南中学校ブログ

<https://schit.net/mishima/minami-j/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯 生徒一人一人の授業理解の向上を図ったり、学習環境を整えたりすることによって、生徒、学校とサポーターがwinwinの関係になる。

活動名	環境整備(落ち葉集め)			
実施箇所名	三島北中学校(校庭、学校前の歩道)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(環境整備)		
	開催日数等	11日	実施場所	校庭、学校前の歩道
	参加児童・生徒数	38人	ボランティア数	7人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに向けて、環境整備にかかわれるサポーターの募集して、5月に説明会を実施する。その時に、落ち葉集めの案内を10月末に出すことを伝える。 ・銀杏並木の落ち葉になる頃を予想し、10月下旬に実施日(週2回)の案内をサポーターに送る。合わせて、生徒と協働する日時(2回)を知らせる。 ・参加できるサポーターを集約するとともに、必要用具などを準備する。 			
	<p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度までは、授業時間帯にサポーターのみで活動した。そこで、今年度から、放課後、環境委員会の生徒も一緒に活動することによって、サポーターとの会話や協働を促したり、サポーターの活動を下校する生徒に見える化を図ったりした。 			
	連携先	三島市立北中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・銀杏の落ち葉を集中的に集めているので、学校前の歩道や校庭がきれいになってよい。 ・放課後のサポーターと生徒との協働活動は、下校時間に行っていたので、他の生徒にも見える化が図られた。 ・協働活動では、サポーターに依存しているだけでなく、生徒も活動していることで、サポーター・生徒共に活動を理解できている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターの人数(環境整備を希望する)が少ないので、生徒と一緒にする協働活動を、落ち葉の多い時に、増やしていきたい。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

学校支援地域本部の立ち上げ時に、学校が必要とする活動で地域の方がボランティアとして支援できることを考えた。「学習支援」が、その条件に合致したため「基礎学力の補充と3年生の受験に向けた面接練習」を支援することから始めた。

活動名	NGO活動（「なかざと」「がくしゅう」「おたすけたい」の頭文字）			
実施箇所名	三島市立中郷中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	週1回(毎週木曜)	実施場所	学校 進路指導室
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	5 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度より、日課の変更に伴い木曜日が6時間授業となったが、部活動は変わらず実施していないため、短い時間でも集中して自学自習を基本とする学習体制で行っている。 生徒はわからないことがあると学習支援員に声を掛け、質問をする。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部が中心になり、コーディネーターに教員OBを配置することにより、地域住民や大学生の参画が可能となった。 三島市生涯学習課との連携、学校PTAとの連携により、本校卒業生や市内大学に通学する大学生のボランティアが増えた。 			
	連携先	なし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 身近な大学生や地域住民等、保護者や教員以外の大人との関わりをつくる機会となっている。 全学年の希望者が、1つの教室で学ぶことで、お互いに良い刺激を受けている。また、上級生が下級生の面倒を見て生徒同士が教え合う場面もあった。 大学生や地域住民の長所を活かせる場として、支援する側にとっても有用である。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 1年を2期に分けて、生徒に募集をかけている。応募生徒の人数によって支援員を配置するため、支援員数が流動的である。 自学自習のスタイルを長く続けてきたが、基本的な学習を学びたい生徒にとっては、授業スタイルの学習も良いと思われるため、テスト前などは希望を取り、基本の学び直し講座のようなものを開設してもよいと思われる。 			
備考				

参考URL

<https://schit.net/mishima/nakazato-i/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯 平成26年度から学校支援地域本部として活動を開始、令和2年度からは、地域と学校とが連携・協働し、地域全体で子供を育てるという視点をもった地域学校協働本部へと発展させ、活動を継続している。

活動名	学習支援「英語検定試験の準会場運営」			
実施箇所名	三島市立北上中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	2日	実施場所	三島市立北上中学校
	参加児童・生徒数	76人	ボランティア数	5人
	<p><概要・特徴> コロナ禍によって英語検定試験会場が遠方となり、市内や近隣市町での受検が難しくなったことから、北上中学校に通う子どもに受検の機会を作ってあげたいという思いから実施することとなった。北上中地域学校協働本部実行委員会の運営により年間2回実施している。</p> <p><活動上の工夫> ・地域学校協働本部が中心となって、地域住民からもボランティアを募り運営。 ・北上中学校を会場とすることでより多くの生徒の受検が可能となった。 ・事前に生徒への説明会を実施し、申込等がスムーズにできるようにしている。 ・準会場となることで、検定料の負担が軽減された。</p>			
	連携先	地域学校協働本部の代表のメール		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 検定が受けやすくなったことで、受検者数の増加や英語学習への意欲向上につながった。 会場が中学校のため、検定料や送迎など保護者の負担が軽減された。 地域住民のボランティアが参加してくださったことで地域住民との関わりをもつ機会となった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動の大会等の日程を確認した上で日程を調整することで、より多くの生徒の受検機会となるようにしたい。 継続的なボランティアの人数の確保。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 災害時に避難所となる地域の公民館の場所を知ることや地域の生徒は地域で育てることを目的として、地域学校協働本部(学校応援団)の主催で始まった。

活動名	中郷西中学校応援団 夏期講習会			
実施箇所名	中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	3日間	実施場所	中学校
	参加児童・生徒数	延べ 91人	ボランティア数	延べ 24人
	<p><概要・特徴> コロナ禍以前は、地域の公民館で実施していたが、感染症予防のため、規模を縮小して中学校を会場に、中学生のみを対象として行った。講師は、日頃から放課後学習会を担当していただいている地域の方と、教育実習生に限定して行った。</p> <p><活動上の工夫> ・会場はかつて各地区の公民館を利用していたが、感染症予防のため、中学校で実施した。エアコンも完備されている中、生徒は集中して学習に取り組んだ。 ・学校応援団や自治会の代表の方にも、講習会の様子を参観していただいた。</p>			
	連携先	自治会、中郷西中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に学習を教えてもらうことで、地域の方と関わるよい機会となった。 ・地域の代表の方に参観していただき、生徒の様子を知っていただく機会となった。 ・講師として参加した教育実習生は、生徒との関係づくりができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、教育実習生に講師を依頼したが、毎年講師を確保することが難しい。 ・学校で開催することで感染症対策と準備等の負担は減少したものの、講師の手配や名簿の作成等、学校側の負担も大きい。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 令和5年度、学校のPTAの組織改定により、環境整備部がなくなり、学校運営協議会に業務委託された。その後、学校運営協議会より地域学校協働本部へ運営委託された。

活動名	地域学校協働本部奉仕作業			
実施箇所名	山田中学校 校内・敷地内			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援及び職員の働き方改革		
	開催日数等	年間3回	実施場所	山田中学校
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	20人
	<p><概要・特徴> 学校より委託された同組織が、奉仕作業の実施箇所、実施日、実施内容のすべてを企画・運営している。</p> <p><活動上の工夫> ・中学校の窓口は教員のみとしている。基本、全てにおいて同組織で完結している。 ・地域人材に声掛けすることで、改めて地域人材の確保、情報共有につながっている。</p>			
	連携先	地域学校協働本部、地域住民		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革にもなり、生徒たちの負担の軽減にもなっている。 ・地域住民と同組織及び学校とのつながりを感じる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・作業箇所が増えた時と窓口である教頭の負担軽減も見直したい。 ・さらに地域住民に同活動を周知する方法等。 			
備考				

参考URL

市町名 富士宮市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 地域学校協働活動、教員の働き方改革の一環として、教員への負担を減らし、中学生が地域活動へ積極的に参加しやすくなる体制づくりを目指して、令和5年度より実施。

活動名	地域の活動に参加し、地域のためにできることを見つけよう			
実施箇所名	富士宮市立富士宮第三中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	(例：学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	開催日数等	随時	実施場所	地域
	参加児童・生徒数	325 人	ボランティア数	85 人
	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域から依頼される、地域活動（防災訓練、敬老会、文化祭、体育祭、秋祭り、清掃、廃品回収等）への参加要請に対して、生徒が地域の一員として自覚し、積極的に地域活動に参加する体制を整えていく。 ①学校に、各地区から生徒の参加依頼を受ける。 ②依頼を受け、教員が生徒へ情報提供する。 ③参加する生徒は、地域コーディネーターへ参加の意思を伝える。 ④地域コーディネーターは参加生徒を取りまとめ、区長へ連絡する。 ⑤生徒は地域活動に参加後、活動報告（参加しての振り返り）を地域コーディネーターへ提出する。 ⑥地域コーディネーターは、生徒からの報告をとりまとめ、学校、区長へ伝え、今後の活動の在り方を検討する。 ⑦地域コーディネーターは、大宮西地区地区社協（各区の区長が集まる場）において、各区の活動を報告し、情報を共有する。 			
	連携先	富士宮市地域学校協働本部		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災活動に参加して地域の方から防災について話を聞いたり、仮設トイレの設置や可搬ポンプの動かし方を実際に体験したりすることで、学校の授業では体験できないことを学び、知識を深めている。 ・生徒が各地の行事活動、地域防災・敬老会・文化祭・体育祭・秋祭り・地区の清掃・廃品回収その他いろいろな活動に進んで参加している。 ・生徒が地域行事に参加することで、地域の文化と生きる力を習得している。 ・生徒が積極的に活動に参加しはじめ、今年で2年目になる。12月地区防災訓練に70%の生徒が参加した。活動に参加した生徒からは、「地域の方と顔見知りになれた」「地域の方と話がしやすくなった」という感想が寄せられている。 ・地域の方からは「中学生と連携がとりやすくなった」という声をいただいている。 			
課題等	・各区の行事の企画・計画の段階から中学生が関わられるようにしていきたい。どうすれば中学生が関わられるようになるかが今後の課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 伊東市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 地域との協働体制を深め、教育活動の充実と地域の一員として活躍できる子どもの育成を目指す。

活動名	稲作活動			
実施箇所名	池小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの教育活動支援、地域の人材育成		
	開催日数等	7日間	実施場所	池区田んぼ
	参加児童・生徒数	67人	ボランティア数	60人
	<p><概要・特徴></p> <p>1年生から6年生を対象に、年間を通し種まきから脱穀までの稲作活動体験を実施している。</p> <p>更に、5年生については、もみすり、精米、販売までの工程を学習している。また、育てた稲の藁を使いお正月のお飾りづくりを実施し、自然や文化に触れる活動をしている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を用いた活動を行うことで、地元を大切にすることを育む。 ・稲作に係る一連の作業を体験することで、食物を作る大変さや、食べ物の大切さを学んでもらう。 ・自然や文化に触れ、豊かな感性を育む。 			
	連携先	伊東市立池小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域の方との交流の機会となった。 ・食物を作る大変さを知ること、地域資源の大切さや食事のありがたさを感じられた。 ・育てた稲の藁まで使うことで、工夫や使い方次第で資源を無駄にすることなく活用できると学ぶことができた。また、お飾りづくりを通して日本の伝統文化に触れることもできた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの後継者への伝承。 ・地域指導員の拡大。 ・児童の主体性を育むための活動時間の確保。 			
備考				

参考URL

市町名 富士市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 児童の確かな学力の育成を図ることを目的に、平成27年度から市内の他の26校と実施を始めた。

活動名	よしにチャレンジ(放課後学習支援ボランティア)			
実施箇所名	富士市立吉永第二小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	20回	実施場所	教室
	参加児童・生徒数	8人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴> 対象学年：3年生 実施時間：14:10～14:55 教 科：国語・算数の基本的な学習</p> <p><活動上の工夫> ・課題プリントを終えた児童は、復習プリントを綴じたお手製ドリルを、一人一人のペースで進めることができるよう個別進度対応形式で実施した。 ・漢字の定着を図るために、分からない漢字は辞書で調べて書くという手立てを講じ、児童がどんどん調べ始めるようになった。</p>			
	連携先	特になし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用により、子どもが学習内容の定着を実感し、自己肯定感が高まった <p><児童の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことを教えてもらったので分かるようになった ・できる実感があったので楽しかった ・先生が優しく教えてくれたので、安心して取り組むことができた ・算数の苦手を克服できるように、こういう機会があったらまた参加したい 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してやっていただけるボランティアの確保 ・報償費の確保 			
備考				
参考URL				

市町名 下田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯	<p>令和4年度に市内の中学校が統廃合した影響により、登下校の時間が増加する生徒が多かった。中学校の教職員のみでは、全ての生徒を見届けることが難しい状況であり、通学時間の見守り対応に苦慮していた。</p> <p>学校運営協議会において上記課題について検討され、市内の事業所に見回り活動への協力を呼びかけてみては、との意見があった。</p> <p>学外活動の実施を含めた地域学校協働活動を実施するにあたり、学校と地域事業所との良好な関係の構築を目指すことも含め、地域学校協働活動推進員を中心に、市内事業所に見回り協力の呼びかけを行うこととした。</p>
--------	---

活動名	子ども見守り隊（市内事業所へのステッカー配布）		
実施箇所名	市内34事業所		
活動の概要・特徴・工夫	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が自然に交流出来るような関係性の構築 ・子ども達の通学に伴う不安の軽減 	
	開催日数等	8/29（委嘱式）	実施場所 下田中学校
	参加児童・生徒数	10 人	ボランティア数 16 人
	<概要・特徴>	<p>令和4年度に市内の中学校が統合することとなり、通学範囲が市内全域となった。統合した影響により、登下校の時間が増加する生徒も増え、暗い中一人で下校する生徒や自転車通学でけがをする生徒もあり、見守り等の対応に苦慮していた。中学校の教職員のみでは、全てを見届けることが難しい中で、市内の事業所に協力を呼びかけ、各事業所の業務車両にステッカーを貼り、市内を走行することにより、地域の事業所をはじめ、地域の方々と学校が自然な交流を行える関係構築を図るとともに、生徒が安心・安全に登下校が出来る環境を整えるため、事業所の負担が過大にならないよう考慮し、本事業を実施した。</p>	
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体でも子どもを見守るという認識を、気軽に浸透できるよう、ステッカーを貼り付けるという容易な方法を選択した。 ・委嘱式を実施することにより、報道に取り上げられ、市内ではなじみの薄い「地域学校協働活動」に着目してもらえるようにした。 	
	連携先	34市内事業所	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力事業所が、ステッカーを貼り付けた業務車両で市内を走行しており、子ども達の通学時の見守りの一助となっている。また、本活動を契機に、「地域学校協働活動」の周知にも一役買っている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・本活動においては、協力事業所が日常業務の合間に行っているものであるが、協力事業所のみで行っているものであるため、保護者や地域住民も含め、恒常的に子どもの登下校の見守りが行えるような体制・環境整備を整えていく必要がある。事業所だけではなく、PTAや地域住民を交え、地域と学校が一体的に子どもを見守る仕組みや、地域が学校と共に子どもを育てていくという認識をもてる仕組みを構築していきたい。 ・今回の活動に協力したことをきっかけに、多様な事業所と学校との校外活動への協力など、関係性を深めることとしたい。 		
備考			
参考URL			

市町名 裾野市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯

活動名	富一自まんを探そう			
実施箇所名	裾野市立富岡第一小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	2日	実施場所	学校、学区内
	参加児童・生徒数	62 人	ボランティア数	23 人
	<p><概要・特徴></p> <p>3年生の総合的な学習の時間や社会科の学習に対する支援活動。学区内で栽培されているお茶をテーマに設定して、地域学習に取り組んでいる。その一環として実施している茶摘み体験やお茶の淹れ方教室において講師役を務めたり、子供たちが摘んだ茶葉を製茶して飲めるようにするなどのサポートを行ったりしている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任をはじめとする学校側の負担軽減のために、地域学校協働本部のコーディネーター（地域住民）がつなぎ役となって、地域の人材を探したり、活動の連絡調整を行ったりした。 ・お茶の淹れ方教室において、子供一人一人の活動を保障するとともに3年生でも安全に活動できるように、子供4人につき1人の地域ボランティアを確保し、グループに配置した。 			
	連携先	学校支援ボランティア		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が協働して子供たちを育む活動として定着している。 ・参加者からは、毎年この活動を通して子供とふれあうことができ嬉しいという声が多く届いており、参加者の生きがいになっている。 ・お茶のことをよくわかっている方々からやり方を教わったり、実際に体験したりすることが可能となり、地域学習の質の向上につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の参加者の高齢化が進んでおり、後を継いでくれる人材の発掘が課題である。 ・授業や他の活動がある中で、活動時間の設定と調整が難しい。 			
備考				
参考URL				

市町名 伊豆の国市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯

大仁北小学校地域学校協働本部「北っ子応援ネットワーク」は平成30年に発足、地域と学校が連携して①通学時の安全確保・②花と緑と環境 に取り組んできた。令和5年に学校運営協議会が設置され、教育課題の中から「学力の二極分化」が取上げられた。協議・試行を重ねた結果(P)が、北っ子に委ねられ本格実施に至った。(D)

活動名	北っ子応援ネットワーク・月6学習支援			
実施箇所名	伊豆の国市立大仁北小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	長期休暇を除く月曜	実施場所	校内(研修室等)
	参加児童・生徒数	約30人	ボランティア数	11人
	<p><概要・特徴> 月曜日の放課後(6校時)、45分間実施する。学力・学習に課題を抱えている児童に限らず、放課後に勉強を教えてほしい児童が自発的に参加する。指導者は「月6スタッフ」という名称で、地域ボランティアが務める。教職員OBと住民有志、合計11人で構成する。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月6の会場は、個別指導の必要な児童(主に低学年)は研修室で、自主的に学ぶ高学年は家庭科室を使っている。 ・月6スタッフ間の連絡は、LINEを活用する。出欠について容易に把握できる。 			
	連携先	(地域住民、教職員)		
活動の成果	<p>・北っ子に委ねられ本格実施されたのは令和6年11月からのため、成果の把握はできていない。しかし、参加する児童からは、スタッフを指名したり、次回の開催を楽しみにするなど、期待感や意欲が伺える。学校運営協議会を含めた成果の検証は、定量的な評価は馴染まないと思っているので、適切な定性的評価項目を協議して結論を得た上<C>で、必要な見直しをしていく。(A)</p> <p>・子どもの育ちを軸にした、地域力の醸成と再構築の場として機能するよう、地域のヨコの繋がりが進んでいる。</p>			
課題等	<p>・月6スタッフは現在無償ボランティアとして参画しているが、令和7年度以降サポーター報酬の支出を行いたい。市予算や県費補助を財源として確保したい。</p>			
備考	「立ち上げ経緯」「活動の成果」文中にPDCAサイクルの各イニシャルを補足しています。			

参考URL

市町名 東伊豆町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 21 年度

立ち上げ経緯

活動名	東伊豆町学校支援地域本部事業			
実施箇所名	東伊豆町立熱川小学校・稲取小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後の子供たちの見守り活動・学習支援・学校行事支援		
	開催日数等	熱川小：月火木金 稲取小：水	実施場所	熱川小：図書館 稲取小：理科室
	参加児童・生徒数	熱川小：30 人/日 稲取小：20	ボランティア数	13 人
	<p><概要・特徴></p> <p>平日の放課後に子どもたちの下校見守りを実施し、子どもたちの安全の確保に努めている。また、見守りを通して、子どもとボランティア、地域住民とのコミュニケーションの場づくりにもつながっている。</p> <p>学習支援では、学習習慣を身に付けさせるとともに、家庭事情等により家に帰れない等（保護者不在等）の居場所づくりにもなっている。</p> <p>また、学校行事の支援では、学校の方針を尊重しながら地域とのつながりができるように努めている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に、ボランティアと相談し、大人が全て教えるのではなく、年上が年下の子の面倒を見るようにしている。 ・子供自信、子供間、家庭の問題にも耳を傾け、子供の居場所となるよう心掛けている。 			
	連携先	学校、PTA、社会教育委員会、社会福祉協議会 等		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子供間や地元の大人とのコミュニケーションが取れるようになり、積極的にあいさつができるようになった。 ・子供の話を聞いてあげたり、居場所づくりをしたことで、子供の気持ちを落ち着かせたり悩みを和らげることに繋がった。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの高齢化により、今以上の活動が困難。声掛けや団体の会議等でもPRしているが、若手が入らないため、どうすれば入ってもらえるかが課題である。 			
備考				
参考URL				

市町名 松崎町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯 児童の学習支援及び他世代の交流を目的に、中高生、教員OBが小学生の学習を支援するまつざき寺子屋を企画。夏休み(4日程度)、冬休み(2日程度)に開催している。

活動名	まつざき寺子屋			
実施箇所名	松崎町立松崎小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	夏休み4日、冬休み2日	実施場所	松崎小学校
	参加児童・生徒数	94 人	ボランティア数	45 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生が中心となり、教員OBは中高生を補佐しながら学習支援を行っている。小学生の時に寺子屋で教えてもらったからと、中学生になって支援に来てくれる中学生は多く、良い循環が作られている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前中は学習、午後からはボッチャ体験を行うなど、学習だけでない楽しみを加え、1日を通した子どもの居場所づくりを行っている。 			
	連携先	小学校、中学校、高等学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目となり、夏休み・冬休みの宿題を教えてもらう場として定着している。中高生の支援ボランティアも増えている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎小学校一箇所で実施していることから、参加児童の地域に偏りが見られる。 			
備考				

参考URL

市町名 函南町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和元年度

立ち上げ経緯

登校中の児童がスクールバスの停留所で襲われる事件が発生したことや、町内でも登下校時に不審者の出没、学校近くの交差点で歩道に車がのり上げる事故等が発生したことから、登下校中の安全確保の要望が、学校や保護者から出された。

活動名	登下校見守り隊			
実施箇所名	函南町立東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(登下校見守り)		
	開催日数等	約200日	実施場所	通学路等
	参加児童・生徒数	約700人	ボランティア数	18人
	<p><概要・特徴> 「見守り隊」の編成当初は、地域学校協働本部が主体となって運営したが、実際の活動場所は、各校の通学路等であることから学校とボランティアの関係づくりを重視するようにした。そこで東小では、「登下校見守り隊連絡会」を年2回開催することにした結果、子供たちの登下校の状況や日頃の様子について学校と情報交換をするだけでなく、ボランティア間のつながりも深まりつつある。</p> <p><活動上の工夫> ・「ながら見守り」の気持ちで、「できる人が、できるとき」に活動していただくようにしている。 ・毎年4月に地域学校協働本部の「ボランティア募集」を活用し、保護者や近隣住民に参加を呼び掛けており、人から人への働きかけ、つながりを大切にしている。</p>			
	連携先	函南町地域学校協働本部 函南町立東小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の見守りだけでなく、長年に渡る子供への挨拶や声掛けに取り組んでいる方が多いため、児童・生徒と良好な関係が築けている。 日頃の見守りだけでなく、不審者情報等が入ると、重点的にその付近の見守りに取り組んでくださる方や様々な機関と主体的に連絡をとり情報共有を図る方も見られるようになった。安心・安全なまちづくりにも貢献されている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる「見守り隊」であるため、地区により協力者数に差があったり、参加者が高齢化する中で、新たな協力者が出てこなかったりするなどの課題がある。 			
備考				

参考URL

市町名 清水町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 年度

立ち上げ経緯

活動名	地域学校協働活動		
実施箇所名	南小学校		
活動の概要・特徴・工夫	目的	未来を担う子供たちの成長をささえ、地域と学校が連携・協働し、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。	
	開催日数等	—	実施場所 南小学校
	参加児童・生徒数	651 人	ボランティア数 18 人
	<p><概要・特徴></p> <p>地域学校協働活動推進員がコーディネート機能を担い、学校との連携を図り、支援員、地域住民等の参画を得て、家庭科の学習支援（調理実習補助、ミシン補助）、生活科、総合学習（さつまいも畝作り、つるさし野菜植え付け、田植え等）など、多様な活動を行っている。</p> <p>ボランティア活動や支援活動に協力的な地域住民や保護者が多く活動には困らない。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進員が担当教員と打ち合わせを行い、学校が必要とする支援を把握し支援員や地域住民をコーディネートしている。 ・各地域学校協働活動推進員の得意分野を生かし活動している。 ・運営協議会などで学校の課題があがったときは、推進員から具体的な内容をボランティアスタッフや支援員に伝え支援活動の改善に努めている。 		
	連携先	(自治会、民生委員児童委員連絡協議会、読み聞かせボランティア)	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とコミュニケーションをとることで、子供たちのコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・活動に参加している方々とコミュニケーションを積み重ねることで、地域の中で緩やかなネットワークの形成につながっている。 ・家庭科の学習支援（調理実習補助、ミシン補助）、生活科、総合学習（さつまいも畝作り、つるさし野菜植え付け、田植え等）においては、支援を行ったことにより教員の負担軽減につながっている。 ・担当教員が異動等で担当者が代わっても推進員からの声かけがあるので必要な事業はきちんと継続されている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・CSディレクターが配置されていないため、担当教職員は、地域学校協働活動推進員との連絡調整や地域学校協働本部の調整事務などの負担が増え、教員の多忙化の軽減につながっていない。 		
備考			

参考URL

市町名 長泉町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 保護者と児童の奉仕作業が予定されており、その際池の清掃のボランティア依頼がありました。そこで、地域のボランティアとPTA(家庭)、学校(教職員)の一体的な活動ができないか考え、地域学校協働活動推進員とPTA会長と相談して実現しました。

活動名	学校・家庭・地域連携協力活動			
実施箇所名	長泉町立長泉小学校 池の清掃			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、学校・家庭・地域の一体的推進		
	開催日数等	10月19日(土)	実施場所	長泉町立長泉小学校
	参加児童・生徒数	3 人	ボランティア数	13 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 親子奉仕作業の際に、教職員、PTA、地域学校協働本部ボランティア、池設置当時の卒業生が一堂に参加し、長泉小の池の水を抜き、清掃活動を行った。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 前日より池の水を抜き、池の半分の水を堰き止め鯉を取り出さずに清掃を行った。 2台の汚水ポンプを使用し、池の底にたまった汚泥をバケツリレーで汲み出した。 			
	連携先	地域学校協働本部、長泉小学校PTA、長泉小学校教職員、長泉小学校卒業生		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 池の鯉の顔がわかるくらい、池の水の透明度が増した。 次年度150周年の記念の年として、もう半分の清掃へとつながる活動となった。 昔をよく知る先輩から今の児童につながる支援を頂いた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> より地域学校協働活動のボランティアの取り組みを家庭、学校に周知できるようにしたい。 			
備考				

参考URL

<https://nagasyo.nagaizumi.ed.jp/news/54154/>

市町名 小山町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 30 年度

立ち上げ経緯 小学校の余裕教室等を活用し、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設けるとともに、学習活動等を通し地域住民との交流活動の場を提供するため。

活動名	「ふるさと金太郎博士」事業			
実施箇所名	小山町内各施設・事業所等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援、地域住民との交流		
	開催日数等	各地区行事等実施日	実施場所	小山町内各施設・事業所
	参加児童・生徒数	測定不能	ボランティア数	0 人
	<p><概要・特徴></p> <p>○児童生徒は学校から配布された行事一覧表や広報、地区回覧等を見て活動先を選ぶ。専用の手帳を持ちイベントや地域の行事等に参加し、イベント先で印をもらう。(決められた活動先でもらえない場合は保護者が押印。)</p> <p>○行事に参加することで、事前に定められた1～3ポイントを獲得。</p> <p>○小学校3年～中学校3年までの6年の間に、銅賞(30P)銀賞(60P)金賞(100P)ふるさと金太郎博士(150P)の表彰を行う。</p> <p>■手帳に感想を記入し学校へ提出</p> <p>■児童生徒ポイント獲得</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事予定をもとに、イベント一覧表を配布・掲示し周知していく。 ・年度初めに、区長会等を通じて区民に、学校を通して児童生徒への説明を行っている。 			
	連携先	教育委員会生涯学習課		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・5年の実施年数を重ね、学校・家庭・地域に事業が定着してきた。令和4年度末累計で、銅賞230人、銀賞31人、金賞15人、博士5人の受賞者が誕生した。 ・子供たちが地域に出る機会が増え、地域での体験を通じての学びが充実してきた。また、子供たちの参加が地区行事の活性化につながる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地区行事への参加がきっかけとなり、「中学生ボランティア」への積極的な参加につながっていくとよい。 ・コロナ禍で地区行事が中止される中、学校内でのボランティア等を推奨する「学校ポイント」を加えたが、学校間格差への配慮が課題となっている。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

コロナ禍において地域の方との連携が一旦薄れたが、地域コーディネーターを中心に、図書ボランティアを改めて募り、活動を再開した。また令和5・6年度の新校舎建設や5校の統合に合わせ、図書館整備や読み聞かせ等の活動を充実させている。

活動名	図書ボランティア活動			
実施箇所名	島田市立島田第一小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	23	実施場所	図書館・各教室
	参加児童・生徒数	715 人	ボランティア数	31 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館整備と読み聞かせの2つの活動に取り組んでいる。 ・令和4年度は、前期に活動の計画やボランティアの募集を行い、後期から図書館整備や読み聞かせに取り組んだ。 ・令和5年度は、年度初めからボランティアを募り、年間を通じた活動になった。特に、年末年始の新校舎への図書の移動に係る作業に力を入れた。 ・令和6年度は、更にボランティアの方が増え、更に充実した活動になってきている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合前の各旧小学校の図書館支援員と連携して、旧各小学校の図書館で使っていた物を新校舎に移動して、新図書館を整備した。 ・近隣の保育園等の職員にも読み聞かせボランティアに入ってもらい、保幼小連携の活動の一つとしている。 ・ボランティアの方には、PTAで制作した「わかあゆパトロール」と記したバッグを普段から活用していただき、地域内の見守りにも貢献していただいている。 			
	連携先	(例:自治会、公民館、シニアクラブ、読み聞かせボランティア、企業、他学校等)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年を追うごとに、ボランティアの人数や活動回数が増えて、学校の読書活動を活性化してきている。 ・近隣の保育園等の職員の方々にも入っていただくことで、就学後の子供の様子について情報交換をする機会を増やすことができた。 ・ボランティアの協力のおかげで、新図書館への移転に向けた活動を計画的に進めたり、新図書館内の整備を短期間で遂行したりできた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・統合してクラス数が多くなったことにより、1回の読み聞かせ活動でボランティアの方による全クラスでの読み聞かせにまでは至っていない。 ・ボランティアの人数が増えてきているため、連絡系統や連絡方法を更に整備したい。 			
備考				

参考URL 島田第一小学校HP <http://1-e.shimada.ed.jp/index.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 2年担任から生活科の学習の中で、地域にある商店等を見学したりインタビューしたりする活動において、地域の方にボランティアとして引率をお願いしたいという要望が出された。また、商店や施設へ見学の依頼について、コーディネーターの方に仲介をお願いしたいという要望も出された。

活動名	2年生活科「まちたんけん」			
実施箇所名	島田市立島田第二小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(授業支援)		
	開催日数等	3日間	実施場所	島田第二小学区
	参加児童・生徒数	48人	ボランティア数	8人
	<p><概要・特徴> 地域のことを知るために、2日間に分けて学区の探検を行った。その中で児童が「もっと知りたい」と希望した和菓子店などの商店、神社等、6つの見学先を決めた。引率については、担任だけでは足りないため、コーディネーターに依頼し、地域の方々(8名)にボランティアで引率をしていただいた。</p> <p><活動上の工夫> ・見学先について、学年児童全員で地域を歩き、児童の興味や関心が高かった商店や施設を選定した。 ・引率ボランティアの方々には、事前に説明会を行い、活動の目的について担任から詳しく説明を行うことで、活動を効果的に行うことができた。</p>			
	連携先	学区内の商店等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの商店等が児童の見学を受け入れてくださった。活動の目的をよく理解していただき、簡単な仕事体験をさせてくださった見学場所もあった。 ・8名のボランティアの方が、それぞれの見学先まで引率してくださった。事前の打ち合わせにおいて、見学の目的をよく理解していただいていたため、価値のある活動とすることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目の取組であり、コーディネーターの方がどのような活動を理解してくださっていたため、ボランティア募集の依頼がスムーズにできた。しかし、同じ時期に校内の他学年の活動でもボランティアを募集しており、人数の確保や調整に負担を掛けてしまった。次年度以降も、これまでの実践を生かして活動を充実させていきたい。 			
備考	11月に行った授業参観では、2年生が「まちたんけん」のまとめを発表した。見学先の方やボランティアの方にも参観していただくことができた。			
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 小学校の授業担当教員からの要望により実施

活動名	ミシンでソーイング(ミシン操作補助)			
実施箇所名	島田市立島田第三小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	小学校5・6年生 2クラスのミシン実習授業の補助		
	開催日数等	11日(2~3時間)	実施場所	家庭科室
	参加児童・生徒数	45人	ボランティア数	1回2~3人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 5・6年生の家庭科授業「ミシンでソーイング」のミシン実習の見守り、補助活動をボランティアが行う。 1クラス20数人の児童に対し、ミシン糸かけから操作練習、エプロンの制作までを1人の担当教師が指導する中、ボランティアが見守りや助言を行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故のないように見守る。 教員の説明を理解できない児童やミシン操作がうまくできない場合に補助的指導を行う。 ボランティアは、教員の指導内容を理解したうえで、教員の指導内容に沿った活動を心がける。 			
	連携先	地域コーディネーター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 1クラス20数人の児童を相手に、1人の教員が実技指導を行っており、個々の児童への指導にも時間的限界があり、ボランティアの活動は教員にとっても児童にとっても有益であった。 地域の住民がボランティアとして教育現場に入り、児童と接することにより、学校と地域の親近感が醸成される。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア確保が難しく、工夫が必要である。 今回はコーディネーターのついでに依頼し、ボランティアを確保した。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

地域の教育力を掘り起こし、教育活動にボランティアとして参画していただくと共に、学校・地域のつながりを深め、教育効率を高めることをねらいたいと考えた。

活動名	地域教育力を生かす教育ボランティア			
実施箇所名	島田市立島田第四小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校の教育活動に地域ボランティアを積極的に導入する		
	開催日数等	9/17~10/30	実施場所	島四小 家庭科室
	参加児童・生徒数	129 人	ボランティア数	8 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年行ってきた図書館支援やクラブ活動指導のボランティアを中心に、授業への協力へと広げていく。今年は、家庭科での「ミシンボランティア」を募集するなど、教師だけでは関わりきれない部分に参加していただき、子供たちに関わっていただいた。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターに、授業支援の相談をする取組を推進した。取りかかりとして、保護者が参加しやすい「家庭科 ミシン支援」を実施した。 ・コーディネーターから地域・保護者へボランティアを募るようにした。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や児童の様子について理解を深めてもらい、保護者・地域の方の協力を得ることでよりよい教育環境が実現することを実感していただいた。 ・「教育ボランティア」のハードルは高くなく、「自分にできること」と「学校が求めていること」のマッチングが重要であることを実感していただいた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校職員には、まだまだ「学校が求めること」への遠慮があり、広く地域へお願いする土壌が育つまでにまだ時間と実践が必要である。 ・「人材バンク」「人材リスト」といった財産がまだまだ不足しており、コーディネーターの個人力に頼らざるを得ない。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 4 年度

立ち上げ経緯 2年生および特別支援学級の「野菜の栽培」の授業の際、苗の植付けから収穫に至るまでの専門的な知識を必要としたため、地域学校協働本部コーディネーターを窓口にして地域に呼びかけた。たまたま、そのコーディネーターが農業を営んでいたため、この事業に中心となって関わり始めた。

活動名	野菜の栽培			
実施箇所名	島田市立島田第五小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	5日	実施場所	学校農園
	参加児童・生徒数	51人	ボランティア数	1人
	<p><概要・特徴> 2年生の生活科及び特別支援学級の授業において「野菜の栽培」を実施。野菜を立派に育て上げるために必要な条件や活動内容を専門家から学び、それを実践することで、様々な野菜の成長や収穫の喜びを味わう場としている。</p> <p><活動上の工夫> ・野菜を植え付ける際の正しい方法や今後の育て方について、実際に農園で専門家が手本を示しながら直接指導したため、大変分かりやすかった。 ・学校のホームページで活動の様子を発信し、更に地域に協力を呼びかけた。</p>			
	連携先	島田市立島田第五学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家がとても熱心にこの事業に関わったため、児童も野菜栽培に関する専門的な知識をもとにした活動ができ、とてもたくさんの野菜を収穫することができた。 ・子ども達の「地域の方」への信頼が高まり、地域のよさを再確認することができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のように、学校の教育活動に積極的に参画してくださる地域人材をできるだけ多く確保し、より開かれた学校づくりを目指したい。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部

○

放課後子供教室等(学習支援・体験活動)

家庭教育支援

その他(通学合宿等)



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯

1年生が春から栽培してきたさつまいもをたくさん収穫することができた。そこで、さつまいもをどのようにするかを相談したところ、日頃お世話になっているが、なかなか感謝の気持ちを伝えることのできない“見守り隊の方”に感謝の気持ちを伝えたいという思いが子供たちから出てきた。そこで、見守り隊の方とさつまいもでハッピー♪を開催することになった。

活動名

見守り隊の方とさつまいもでハッピー♪

実施箇所名

島田市立六合小学校

活動の概要・
特徴・工夫

目的 地域の見守り隊の方々の活動に感謝し、一緒に活動して仲良くなる。

開催日数等 11月12日 実施場所 六合小学校

参加児童・生徒数 89 人 ボランティア数 29 人

<概要・特徴>

小学校1年生の生活科学習「季節と仲良し」において、秋の作物である、さつまいもの栽培計画を立てた。子供たちが、さつまいもの苗を植え、草取りを行い、秋に収穫をした。普段、登下校の時に見守ってくれる方々には感謝の言葉を伝えられずにいた自分たちの思いを伝えたいと考え、収穫したサツマイモを通して交流した。

見守り隊は地域の六合コミュニティーの自主的活動である。六合コミュニティーの事務局にコーディネーターが連絡をとり、見守り隊の参加を呼びかけた。

<活動上の工夫>

・コーディネーターが地域の見守り隊をとりまとめている方々と連絡を取り合い、見守り隊に参加している方々に周知していただき、見守り隊の方々に学校に来ていただいた。

連携先 地域コーディネーター

活動の成果

見守り隊の方々に来校していただき、7つのさつまいも料理グループに分かれて一緒に活動していただいた。さつまいもを切ることが難しい子どもたちを温かく支えてくださったり、焼き芋の炭の扱いに注意してくださったりした。

調理の過程で待ち時間のあるグループは一緒に遊んでいただいたり、絵を描いたり、子どもたちの質問に答えたりしていただき、温かな時間を過ごすことができた。

終わりの会では、たくさん見守り隊の方が「大変嬉しい時間だった。最近では子どもたちの挨拶が以前よりも増していて更に嬉しく思っている。」とお話していただいた。

課題等

・来年度も同じように活動するとは限らないが、子供たちの思いを大切にしながら、地域の方々との交流を続けていきたい。

備考

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯 平成22年から、学区内の上野田地区で地区の子供たちを対象に水質調査活動を行っていたが、アグリ大津という団体を立ち上げたのをきっかけに、令和3年から大津小学校の5年生と活動を行うようになった。

活動名	大津地区の水質を調べよう			
実施箇所名	島田市立大津小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、地域の人材育成		
	開催日数等	年2回	実施場所	学区全域
	参加児童・生徒数	26 人	ボランティア数	6 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の農地と豊かな自然を守っていこうとする人材を育てたいという農業者団体の思いと、身近な環境について考えたいという児童の思いが一致し、地域の方が講師となり、5年生が学区内の川、用水路の水質を調べる活動を行っている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域を流れる大津谷川の上流部から下流部の6か所の水を採取し、水温、透明度、を調べるとともに、目に見えない汚れ具合についてパックテストを使って調べる。 調べた結果を地図や表にまとめ、どのような場所の水が汚れているのかを確かめる。 			
	連携先	アグリ大津(地域の農業者団体)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 川の水はきれいだが、家が多いところは水が汚れていることや、大津谷川の水が米作りなどにも使われていることを知り、川を大切にすることはどうしたらよいのか、自分たちにできることは何か、考えるきっかけとなった。 地域の方と一緒に活動し、自然の豊かさやそこで暮らす人の思いに触れることで、郷土愛を育むことができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 児童たちは、夏と冬の水質を比較することを通して、田んぼには水をきれいにすることはたらきがあることも理解することができたが、減りつつある地域の田んぼを守っていききたいという気持ちに高めていくには、より一層、地域と協力して活動内容を工夫していくことが必要である。 			
備考	今年度は、第1回目の調査を6月20日、第2回目の調査を1月22日に行った。			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

学校図書館を豊かな空間にするため、図書館ボランティアの募集を行っている。図書館ボランティアの方には、季節の掲示物作成・ブックカバーがけ・本の整理・本の紹介コーナーの設置等の仕事に取り組んでいただいている。

活動名	学校図書館ボランティア			
実施箇所名	島田市立六合東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校図書館の環境整備		
	開催日数等	2か月に1回	実施場所	学校図書館
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	約15人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館に、季節や学校行事に合った掲示物を貼ることにより、オアシスのような空間を演出することができている。また、季節に合わせた掲示は、子どもたちの豊かな感性を育むことにも寄与している。 教職員の負担軽減にもつながっている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で活動が制限されたことから、掲示物のパーツを事前に準備し、各家庭で作成できるよう準備した。それぞれが、完成した掲示物を持ち寄ることにより、学校での活動時間は、貼り替えが主な仕事となり、時間の短縮につながった。各家庭で、空いている時間に掲示物を作ることができるため、時間に追われることなく、工夫した掲示物をつくることができる。 ボランティア募集では、活動員同士で声を掛けてくださり、毎年継続した活動ができています。負担のないよう、年間計画をたて、都合のつくボランティアの方が参加して下さっている。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館が、子どもたちの「居場所」になっている。 ボランティアの方が気軽に参加できるようになり、新しいメンバーが増えてきている。 ボランティアさんの創意工夫ある掲示物で、学校図書館が季節を感じることができる豊かな空間になっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 脚立等を使って作業をするため、怪我等をしてしまう心配がある。学校では「ボランティア保険」に入ることを検討している（令和6年以降）。 			
備考				

参考URL

六合東小ホームページ <http://rokuhigashi-e.shimada.ed.jp/>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和5年 年度

立ち上げ経緯 クラブ活動において、教員の負担も大きく、年々活動内容に限りが見えている現状を、地域ボランティアさんの力を借りて充実させたい。

活動名	和文化クラブ			
実施箇所名	島田市立初倉小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供たちや先生方の楽しみが増えること		
	開催日数等	計6回	実施場所	校内図書室・くらし和室
	参加児童・生徒数	10人	ボランティア数	2人
	<p><概要・特徴></p> <p>日本の伝統文化を体験して、後の生活に彩りを添えたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煎茶の入れ方(暖かい煎茶と冷茶) ・茶道(お抹茶をたてる) ・華道(お花を生ける) <p><活動上の工夫></p> <p>・畳のある家が少なくなる中、初倉地区総合センターの和室をお借りし、床の間や畳のへりの歩き方・正座の仕方・懐紙を使ってのお菓子の食べ方・お茶の入れ方と飲み方・道具の扱い方・お花の扱いなど、ゆったり落ち着いた空間で本物に触れ和の心を楽しめるよう、準備等に時間をかけ手順良く進めました。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4・5年生の異学年が和文化を仲良く体験し、所作を学び45分間落ち着いて活動することができました。 ・和文化の良さを知り興味を持ってくれた子ども達は、生活にプラスしていきたいと話してくれています。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・準備にかなりの時間がかかるので、あと数名のボランティアさんが必要 ・材料費がかかる為、活動費にもう少し補助が出ると良い 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 3 年度

立ち上げ経緯 5年生社会科「未来を支える食料生産」の中の「米づくりのさかんな地域」学習において、子供たちに体験を伴った学習を行いたいという学校の要望から実施

活動名	5年生お米作り体験			
実施箇所名	島田市立初倉南小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	3日間	実施場所	学校・学校周辺田んぼ
	参加児童・生徒数	53人	ボランティア数	35人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に「田」を貸していただき、田植え(5月)、稲刈り・粃摺り体験見学(9月)を実施。「田」を貸してくださった地域の方や地元JAの方・生産者女性部の方が講師になってくださる。 ・JAや生産者女性部の支援を受け、自分達で作ったお米で「恵方巻き」作りを親子ふれあい活動として実施(2月)。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部コーディネーターが各連携先と連絡をとり、日程調整を行っている。 ・地域学校協働本部コーディネーターが活動の様子を、校内の地域連携コーナーに写真で紹介している。(学校ホームページでも紹介している。) 			
	連携先	地元農家・JA		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって、充実した体験学習をすることができ、「米づくりのさかんな地域」の学習を、「自分ごと」として学ぶことにつながった。 ・地域の方や地元JAの方との連携が深まってきた。 ・自分たちの作ったお米を使い、親子で恵方巻きを作って食べることで田植えや稲刈りをした体験がより充実した活動に感じることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「稲の苗の準備」や「収穫したお米の保管」「生産者との連絡」はJAの方、田植え後の「稲の管理」は、地域の方がしてくださっている。とても大きな支援を受けており、今後も継続していただけるよう、関係づくりをしていくことが必要である。R5から管理していただける生産者さんが変更した。今後も変更があり得るので、地域の方との連携を密に行い、変更先も見つけることができるようにしていく。 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品である「お茶」も、3年生が5年生と同様に地域の方の茶畑をお借りし、JAの協力も得て、手摘みや茶もみ体験等を行っている。 			

参考URL

<http://hatsunan-e.shimada.ed.jp>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 市が推進する「夢育・地育」への取組の一環として、コーディネーターとの連携により保護者や地域の方に学習サポートを依頼することで、各活動の充実につなげていきたいと考え、実施し始めた。

活動名	ネットモラル講座		
実施箇所名	島田市立金谷小学校		
活動の概要・特徴・工夫	目的	授業支援	
	開催日数等	延べ3日	実施場所 金谷小学校・学区
	参加児童・生徒数	90 人	ボランティア数 延べ1 人
	<p><概要・特徴> コーディネーターとの連携により、保護者や地域の方に各学年の学習活動をサポートしていただいている。ここで紹介する『ネットモラル講座』はその1つである。情報機器やネットトラブル等について、見識のあるボランティア(今回はコーディネーター御本人)さんを講師に招き、授業を行う。</p> <p><活動上の工夫> 授業参観日に実施し、子供たちだけでなく、保護者にもクロームブックの使用上の約束や適切な活用法について理解を促す。また、オンライン授業をすることで、3クラス同時に授業を行うことが可能となり、講師の負担を減らすことができる。</p>		
	連携先	地域コーディネーター	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にコーディネーターと学年主任が綿密に打合せを行うことで、子供たちの実態や課題にあった内容になった。 ・クロームブックの使い方やネットモラルについて、親子で再確認する良い機会となった。 		
課題等	近年、5年生の12月にネットモラル講座を行ってきた。しかしながら、クロームブックを授業で活用することが習慣化した今、低学年における指導も必要だと考える。各学年の実態をとらえ、系統的なカリキュラムを作成したい。講師(ボランティア)と内容についても十分に検討するとともに、企業のサポート等も受けながら充実したネットモラル教育を行いたい。		
備考	活動の様子を学校ホームページや学校便りで紹介している。		

参考URL

<http://kanaya-e.shimada.ed.jp/>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 4年生の総合的な学習の時間「タイムカプセルプロジェクト」の学習において、50年前に開校100年の記念に埋めたタイムカプセルを掘り地域の方に届けたいという児童の願いを受け立ち上げた。

活動名	五和の魅力を伝えよう～タイムカプセルプロジェクト～		
実施箇所名	島田市立五和小学校		
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援	
	開催日数等	5月～2月(4回)	実施場所 五和小学校、地域
	参加児童・生徒数	43 人	ボランティア数 9 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時タイムカプセルを埋めた方にインタビューし(7月)、タイムカプセルについて調査した。その後、タイムカプセルを掘り出していただけの方を探し(9月)、掘り出した(10月)。掘り出した品物が劣化していたことから、活動の方向を修正し、「五和小博物館」を企画した。学校公開日に合わせて地域の方を招待し(12月)、ここまでの成果を発表した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部コーディネーターが地域の方と連絡を取り、日程調整を行った。 ・学校公開日に合わせて発表の場を設け、地域の方を招待することで、当時埋めた方だけでなく、多くの保護者や地域の方にも知らせる機会にした。 		
	連携先	地域の方	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「タイムカプセルを掘り、品物を地域の方に届けたい」という願いは、品物の劣化によって実現できなかった。しかし、その経過も含めて「五和小博物館」として発表するというダイナミックな活動に発展した。 ・カプセルを埋めた地域の方にとって、同窓会のような思いを感じさせる契機となり、時代を越えて、学校と地域の結びつきを強めることができた。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間では、児童の思いによって学習が変化していく。学習の展開に応じて、その都度、関係のある方に出会ったり、必要な支援を受けたりすることができるよう、地域との関係づくりをしていくことが一層必要である。 		
備考			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯 生徒が夏休みの宿題を進めたり、1学期の学習内容を質問したりすることで、2学期のスタートをスムーズに切ることができるようにしたいと考え、学校から依頼をした。

活動名	夏休み島一中寺子屋			
実施箇所名	島田市立島田第一中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	8月2日、6日	実施場所	島田第一中学校
	参加児童・生徒数	約250人	ボランティア数	約30人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々(元教員)と地元の高校生(島田高校、島田樟誠高校)を講師に招き、夏休みの宿題や分からない問題がある教科を中心に学習支援を行った。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部コーディネーターが中心となり、地元の高校生や地元在住の元教員に、中学生の学習支援をしてもらうように依頼をした。その結果、約30人のボランティアが、中学生の学習支援を行ってくれた。 			
	連携先	島田高校、島田樟誠高校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加した中学生からは、「自分で考えてもわからなかった内容が高校生や講師の先生に聞いてよく分かったからとても助かりました。」「分からない内容をすぐに質問できて、集中してできたので良かったです。」といった感想等があり、来年度も参加したいと多くの生徒が回答した。 高校生からは、「個々に教えていくことは良い経験になりました。自分が理解していることを言語化して相手に理解してもらうことは難しいと感じました。将来、教育関連の仕事に就いたら今回の経験を生かしたいです。」等、やりがいを感じてもらえる機会となった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を通して寺子屋の申込みをするので、生徒の意志ではない参加がいくつかあった。生徒が主体的に学習に取り組む機会にしたいので、来年度は生徒が直接申込みをするシステムにする予定である。 参加生徒の人数に対して支援して下さる地域の講師の方々的人数が十分ではないので、新規で見つけることが必要となっている。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 島田第二中学校の重要課題の一つに不登校が挙げられる。孤立しがちな登校に悩みを抱える保護者が、モヤモヤした気持ちを話したり、聞いたりできる集う場が必要であると考えたため。

活動名	二中しゃべり場			
実施箇所名	島田市立島田第二中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	登校に悩みを抱える保護者の居場所づくり		
	開催日数等	4日	実施場所	島田第二中学校
	参加保護者数	8人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 登校に悩みを抱える保護者が集まり、フリートーク、情報交換を行う。 ココミラ島田とも協力し、ココミラ島田のコーディネーターも参加する。 申し込みは不要で、途中入室、退室も認める。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ココミラ島田のコーディネーターと協力することで、場の作り方などを教えていただき、活動している。 生徒の目につかない二中体育館にある会議室を利用することで、参加しやすい状況を作っている。 参加者はニックネームで呼び合うなど、プライバシーに配慮している。 			
	連携先	ココミラ島田		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度より実施し、本年度は年間4回を予定している。 参加した保護者は、不安な気持ちを吐露したり、お互いに情報交換したりできている。 本年度は、島田第二中学校区の小学校にも呼びかけ、中学校に入学する際の不安や疑問点などを話せる場として活用する予定である。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の固定化が見られる。 個人情報の保護に配慮が必要である。 			
備考	第1回：7月17日(水) 第2回：9月3日(火) 第3回：11月20日(水) 第4回：2月26日(水)			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 学校と地域学校協働本部コーディネーター、学区内自治会長、島田市との協議による。

活動名	六合にやさしいプロジェクト			
実施箇所名	島田市立六合中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の人材育成、まちづくり		
	開催日数等	6/24~12/18	実施場所	
	参加児童・生徒数	310 人	ボランティア数	10 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「六合を知り、六合に貢献する」ことを目的として、生徒自身が個々の視点で解決する課題を捉える。 ・地域に関わる市、地域コミュニティ委員会、まちづくり委員会から講師を招聘し、講話を受け、課題解決への糸口をつかむ。 ・探究活動を行うテーマを決定し、情報収集・整理分析を行う。 ・プレゼン資料を作成し、講師を招き報告会を行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくり委員の長期にわたる活動を具体的に知るために実際に活動された方の話を聞く。 ・講師の依頼先を地域自治会だけでなく、関わっている行政（市都市政策課や子育て応援課）からも講師を招くことで、まちづくりに必要な要素を知ることができる。 			
	連携先	（例:自治会、公民館、島田市都市政策課、子育て応援課等）		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後、地域の方々と、島田市が一緒になって継続的に地域環境などの向上のために力を尽くしていることを具体的に知ることができた生徒が多かった。 ・活動後のアンケートで、8割の生徒が、地域のために貢献することについて考える機会となったと回答している。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・長期にわたった学習になるため、他の教育活動との調整が必要で、担当者（学校側・地域・市）の負担がある。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 初倉地区3校の読み聞かせボランティアの交流を図るとともに、改めて、読み聞かせのよさを再確認し、読み聞かせの仕方を学ぶために計画した。

活動名	読み聞かせ学習会			
実施箇所名	初倉公民館			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、地域の人材育成		
	開催日数等	8月8日(木)	実施場所	初倉公民館
	参加児童・生徒数		ボランティア数	19人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県子ども読書アドバイザーの野中恵美子氏をお招きし、「私の本との出会い」というテーマの講話を行う。 参加者にお薦めの本を1冊持参してもらい、読み聞かせについて情報交換をする。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの交流の際に、読み聞かせをして「嬉しかったこと・楽しかったこと」「難しいと思ったことや悩み」を話題にし、参加者の交流が深まるようにした。 地域学校協働活動推進員が作成するコミュニティ・スクールだよりに学習会の記事を掲載し、より多くの方の目に触れるようにした。 			
	連携先	(読み聞かせボランティア、初倉公民館、初倉中、初倉小、初倉南小)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が、読み聞かせのコツやポイントを学ぶことができた。 読み聞かせ初心者からベテランの方、学校職員等、様々な経験年数の方が参加してくださったおかげで、本の選び方や持ち方、学校での読み聞かせの様子など多くの情報交換ができた。 読み聞かせ学習会での経験を2学期からの各校での読み聞かせに活かしている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 一般の参加者を受け入れ、新規のボランティアを増やしていくこと。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 30 年度

立ち上げ経緯
金谷中学校では、教育理念「自立 貢献～自他の未来のために 自ら考え 決めて 動き出す生徒」のもと、全教育活動で自己調整力を育み、自立を目指す取り組みを行っています。その中、地域の方に、様々な面で支えていただいています。その一つとして、年3回、地域のボランティアの方々を読み聞かせをしています。

活動名	「地域の方々による読み聞かせ」			
実施箇所名	島田市立金谷中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	6月、10月、1月	実施場所	中学校 各教室
	参加児童・生徒数	452 人	ボランティア数	20 人
	〈概要・特徴〉	<ul style="list-style-type: none"> 金谷中学校地域学校協働本部の企画・立案により、地域協働学校本部コーディネータが中心となり、年間3回各学級に一人ずつ、読み聞かせボランティアの方が入って、朝の時間に読み聞かせを行っている。 〈活動上の工夫〉 中学生の発達段階に適した本や、学校で学習している内容に関連する本など、生徒達の興味・関心に合った書物を選んで読み聞かせを行っている。 ボランティアの方々が同じ学級ばかりにならないように、ローテーションして様々な学級で読み聞かせをしている。 		
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> この取組は、金谷中地域学校協働本部の活動として定着しており、地域ボランティアの方々が読み聞かせを通じて、本校に関わってくださっているのは大変有り難いことである。 生徒にとって、地域ボランティアの方々や様々な種類の書物と関わる貴重な機会であるので、今後も引き続きお願いしたいと考える。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今後、学校が地域社会に開かれ、地域に支えていただきながら成長するために、様々な教育活動において、地域の方々や保護者の方々によるボランティアを依頼したいと考えている。地域コーディネータの方と連携を取りながら進めていきたい。 			
備考				

参考URL

<http://kanava-ih.shimada.ed.jp/>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 2 年度

立ち上げ経緯

新型コロナウイルス感染症の影響で休校になり、今までやってきた数多くの活動が全てできなくなった令和2年度より継続して活動を行っている。当時は「感染を避けてでもできる活動」として校長と相談して行った。密を避けるため、休校中の学校で、コーディネーターと業務員の2人だけで、種まきから始めた。

活動名	川根の未来のたねを育てよう有志の会			
実施箇所名	島田市立川根小学校・川根中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	環境の美化、地域と児童生徒・教職員との交流、支援、協働		
	開催日数等	10日	実施場所	川根小学校
	参加児童・生徒数	10人	ボランティア数	20人
	<p><概要・特徴> 地域と学校が語り合いながらできる持続可能な活動として継続している。密を避けた当初の活動と異なり、今は地域の大人が子供たちの活動する姿を見たり、互いに声を掛けあったりしながら活動している。花壇の準備や種まき、生育時期と長い期間を通して子供たちの様子を見たり感じたりでき、子供たちの豊かな生活環境づくりだけでなく、地域と学校につながる機会となっている。</p> <p><活動上の工夫> ・活動を広げるために、地域包括支援センターや花の会など、様々な機関に声をかけた。</p>			
	連携先	グループホーム、PTA、更生保護女性会、保護者、NPO法人、社会福祉協議会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 活動を継続できたため、見通しを持った活動となり、学校のスケジュールとも無理なく合わせて行うことができている。子供たちの目に触れるところでの活動のため、子供たちにとっては地区の大人と親しみ、見守られている安心感や感謝する気持ちを育む機会となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 目的は支援ではなく、交流から協働へという活動の趣旨を多くの教職員に理解してもらうこと。 			
備考				

参考URL

市町名 焼津市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 6 年度

立ち上げ経緯

焼津市では、学校が地域と一体になって特色ある学校づくりを進めていくことができるよう中学校区を一つの地域としてコミュニティスクールの導入を進めてきた。豊田地区は、令和3年度から準備を進めて令和5年度から活動を開始し、子どもたちと地域住民との交流などの活動を行っている。

活動名	児童と地域住民の交流（モルック体験）			
実施箇所名	焼津市立豊田小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、児童と地域住民と交流		
	開催日数等	1日	実施場所	豊田小学校グラウンド
	参加児童・生徒数	20人	ボランティア数	10人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級の児童が地域の方とニュースポーツ（モルック）を一緒に行うことで、学校生活だけではなかなか触れ合わない地域の方と交流する 誰でもできるスポーツとしてモルックを普及したいという願いもあり実現した。（学校と地域両者の願いが通った形となった。） <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方と子どもが混ざって楽しめるようバランスを考えてチーム編成を行った 			
	連携先	自治会、豊田地区 体育委員会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自ルールを設定したのでわかりやすく、誰もが楽しむことができた。 ・ 最初は的に届かない子もいたが徐々に当たるようになり、達成感で笑顔あふれるモルック体験会となった。 ・ （不定期に発行している）CSだよりに掲載し地域全体に活動を伝えることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回限りの活動で終わらないよう続けていきたい。 ・ 他学年の子どもからも「やってみたい」という要望もあるので時間や場所の設定を工夫したい。 			
備考				

参考URL

<https://www.city.vaizu.lg.jp/documents/19400/20241224115535.pdf>

市町名 掛川市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 25 年度

立ち上げ経緯 掛川市では、平成25年度に保幼小中の連携強化と地域による園・学校支援体制を強化するため、「学園化構想」を立ち上げた。その一つが桜が丘中学校区子ども育成支援協議会（桜が丘学園）である。

活動名	桜が丘中学校区子ども育成支援協議会（桜が丘学園）		
実施箇所名	桜が丘中学校、桜木小学校、和田岡小学校、桜木こども園、桜木こどもの森		
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、協働活動、まちづくり	
	開催日数等	1,259日	実施場所 桜が丘中学校、桜木小学校、和田岡小学校、掛川こども園、桜木こどもの森
	参加児童・生徒数	1,541 人	ボランティア数 9,902 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアによる学校支援活動だけでなく、地域貢献活動も実施（部活動単位で地域貢献活動として奉仕作業等を行う「一部一ボランティア」活動等）。 ・区長会やまちづくり協議会等の地区組織と連携したあいさつ運動を実施。 ・地域の豊富な人材による学校支援活動（読み聞かせ、畑の先生、ミシンボランティア等）。 ・中学校の卒業式では「感謝のつどい」の時間が設けられ、卒業生が3年間の感謝の気持ちを込めて、お世話になった地域の方に合唱を披露した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域の支援を必要としたときにいつでも相談できるように、地域コーディネーターのPRを積極的に行っている。 ・地域コーディネーターの得意な分野を活かした支援を実施している。 ・地域ボランティアや園・学校には、丁寧なお祝いとお礼を心掛ける。 		
	連携先	公民館、地区まちづくり協議会、家庭教育サポートチームつなぐ	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園・学校の業務負担軽減につながった。 ・先生も地域のことについて興味を持つようになった。 ・地域住民の地域学校協働活動に対する理解が深まった。 ・中学校を卒業した卒業生がボランティアに参加した。 ・地域ボランティアの年齢層が広がったことにより、様々な人とのつながりが増えた。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地区組織との連携の取り方が難しい。 ・ボランティアが固定化されている。 ・地域コーディネーターの後継者が見つからない。 		
備考	令和2年度に『「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰』を受賞。		
参考URL	https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/8422.html		

市町名 藤枝市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

藤枝市では、平成22年度より、教員が児童一人ひとりに対するきめ細やかな指導をする時間の確保を図るため、地域全体で学校教育を支援し、多様な形態の教員支援を可能とすることを目的とした「学校支援地域本部事業」を実施。平成25年度に名称を「学校サポーターズクラブ」と改め、事業の拡大を進めていく中、平成27年度に大洲中学校区の地域住民の協力を得て、同中学校区に導入。【藤枝市大洲中学校区】

活動名	図書ボランティア			
実施箇所名	藤枝市立大洲小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	環境整備 他		
	開催日数等	年間20回前後	実施場所	図書室
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	年間延べ約90人
	<p><概要・特徴> 通常月2回、図書室において掲示物の作成・展示、図書の整理整頓、図書の修理、図書室内の清掃などを行う。また、保護者会の際の児童の活動の見守りや読み聞かせなども行っている。</p> <p><活動上の工夫> ・サポーター募集のお便りを作成し、地域の回覧板に載せることで新規学校サポーター（ボランティア）の参加につなげている。 ・以前は毎月季節に合わせた切り絵等をその都度新しく作成していたが、近年は学校サポーターが短い時間でも無理なく活動できるよう、季節の掲示物を図書室内に保管しておき、翌年の同時期にも活用できるようにしている。</p>			
	連携先	大洲中学校区学校サポーターズクラブコーディネーターと小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた掲示や写真、掲示物のテーマにちなんだ図書の展示によって図書室の雰囲気明るくなっている。 ・あいさつや、「ありがとうございます」等の児童からの温かな言葉かけが学校サポーターのやりがいにつながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における学校サポーターズクラブの認知度が高いとは言えず、なかなか人材が集まりにくい状況がある。 			
備考				

参考URL

市町名 御前崎市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 21 年度

立ち上げ経緯 国の方針や地域の実態を踏まえ「学校支援地域本部」を立ち上げた。その後学校支援を中心に事業を行っている。

活動名	家庭科の手縫い・ミシンボランティア			
実施箇所名	市内の小中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭科(手縫い、ミシン)授業での一人一人に合わせた補助		
	開催日数等	39日	実施場所	各小中学校
	参加児童・生徒数	約 540 人	ボランティア数	182 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校5・6年生の家庭科の活動やクラブ活動にボランティアを派遣し、教師の補助的立場で児童の制作活動やミシンの扱い方等の支援を行う。 ・中学校の委員会活動にボランティアを派遣し、給食の白衣の修繕の補助を行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部が事前にボランティアを募集し、登録を行い、学校の要望にあった人材を派遣できるようにしている。 ・ボランティア数拡充のために、今年度、ミシンボランティア対象の交流会を開催。指導主事から家庭科で育てたい力や裁縫教室講師からミシンについての具体的な話を聞いたことで、児童への声掛けの仕方やかかわり方・ミシンの指導法などを確認できたとボランティアから好評だった。 			
	連携先	学校支援ボランティア(事前登録)学校 裁縫教室講師		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用することで、一人一人に沿った支援が可能となり、児童にとって学びの多い機会となっている。 ・初めてミシンや裁縫道具を扱う児童にとって、傍で個別の丁寧な指導が受けられることで物を作る喜びを味わうことができる。 ・地域住民と児童の交流の場になっている。児童にとって普段関わりが少ない大人とコミュニケーションをとる大切な機会となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・登録ボランティアの高齢化や退職後も働く人が増えているため、学校からの要望に応えられない時がある。 ・事前に打ち合わせが出来るとスムーズに活動に入れるが時間の確保が難しい。 			
備考				

参考URL

市町名 菊川市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 6年生が総合的な学習の時間「チャレンジ」で、「地域を笑顔と元気にする」を構想した。地元企業(株)赤堀の社長は本校卒業生で、企業理念に地域貢献を掲げ、地元の学校を支援したいと願っていた。社長の思いを学校につなげ、企業と学校のコラボ企画としてプロジェクト「地域を笑顔と元気に」を立ち上げた。

活動名	地元企業とコラボ企画プロジェクト「地域を笑顔と元気に」			
実施箇所名	小笠東小学校、(株)赤堀、(株)コモード			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域との連携		
	開催日数等	複数日	実施場所	小笠東小学校ほか
	参加児童・生徒数	41人	ボランティア数	数十人
	<p><概要・特徴> 小笠東小学校6年生の「チャレンジ」のねらいは、「地域を笑顔と元気にする」である。(株)赤堀の社長を学校に招き、児童のアイデアを紹介し、学校と企業のコラボ企画を提案した。(株)赤堀の協力のもと、児童が取り組んでいるペコリあいさつ運動で使うグッズを製作することにした。(R5:たすきとのぼり、R6:たすきとトートバック)。児童は、関連する標語やキャラクターをつくり、グッズにプリントしてもらった。(株)赤堀と(株)コモードの2社共同で製作(写真)。児童は、オリジナルたすき等を使って、学校の内外であいさつ運動を盛り上げた。</p> <p>グッズは、学舎内の小中学校3校へ送り、共に「地域を笑顔と元気にしよう」と呼び掛けた。この活動は、YouTubeや学校ホームページ、おたよりで地域に発信した。(株)赤堀からグッズが贈呈された(写真)。児童は、手渡されたたすきやのぼりを使って、学校の内外で「ペコリあいさつ運動」を盛り上げた。グッズは、スクールガードなど地域へも贈り、共に「地域を笑顔と元気にしよう」と協力を呼び掛けた。</p>			
	連携先	(株)赤堀、(株)コモード		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・グッズを手手に、児童は全校児童や地域、他校へと「笑顔と元気」を届けるために積極的に働き掛けた。テーマを考え、実行に移し、振り返る一連の活動を通して、児童の主体性が伸びた。 ・思いをつなげるために周囲と関わることで、コミュニケーション能力の向上につながった。 ・地域の教育力を得ることで、教員が教育活動に一層力を注ぐことができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の願うグッズを形にするためには、十分な打合せが必要である。両者の打合せの時間確保が課題である。 ・児童の思いを受け止め、学習のゴールに向かってどう方向付けていくか、教師や大人の力量が試される。 			
備考	(株)赤堀は地元寝具等製造の会社 (株)コモードは、介護サービス事業の会社			

参考URL

市町名 川根本町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 コミュニティ・スクールスタッフ立案による地域と学校を繋ぐメイン活動として年1回実施している。

活動名	『わんぱくチャレンジスクール』			
実施箇所名	旧中川根第一小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	11月26日	実施場所	校舎・グラウンド他
	参加児童・生徒数	約150人	ボランティア数	約30人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校前期課程(1年~6年)全児童、職員が参加している。全体テーマを「自然との共生(自然となかよし)」とし、子供同士の親睦を深めるとともに、学校と地域が協働して元気に歩むことを目的としている。活動場所として、廃校を利活用しているのも特徴の一つである。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある地域の方を「スペシャルティーチャー」として招き、学校応援団等の地域の方もボランティアスタッフとして参加した。 ・各学年にテーマを設け、全体テーマどおりに自然を活かした6種類の活動を実施した。 			
	連携先	地域住民、民間団体、学校応援団		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・町内義務教育学校2校が一同に活動することで、同学年の連携ができている。 ・多くの地域住民が参画することで、子供たちにとっては、特別な体験となる。 ・令和4年度から試行的に運用してきた地域学校協働活動が着実に学校と地域を繋げる役割となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校カリキュラムに組み込むことで先生、児童の参加は確保できるが、平日開催となり支援してくれる地域住民等の参加が難しい部分がある。 ・この活動で経験したことが、後期課程(7年~9年)の探求活動等に繋がることを期待している。 			
備考				

参考URL

市町名 磐田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯 市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定するとともに、各校に地域学校協働本部を立ち上げた。

活動名	田原みどりの会の収穫・農業体験			
実施箇所名	田原小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	4月～10月	実施場所	学校周辺の田畑等
	参加児童・生徒数	140 人	ボランティア数	15 人
	<p><概要・特徴></p> <p>学区内で農業を営んでいる方々で構成されている「田原みどりの会」と連携し、農業体験や収穫体験を行っている。実際に種から育てることによって、動画や写真では分からないことを学ぶことができる貴重な体験になっている。また、子供たちは様々な人と触れ合いながら活動することに楽しさを感じている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科や生活科、社会科の教材と関わらせることによって、体験したことが学習に生きるようにしている。 ・JAの女性部の方の協力を得て、収穫した大豆を使って豆腐作りを行い、味覚的にも楽しめる活動にしている。 			
	連携先	田原みどりの会、JA遠州中央東部支店、田原交流センター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことと、農業体験の経験が結びつくことによって、学習内容の理解がより深まった。 ・様々な人と触れ合いながら活動する楽しさを味わうことができた。 ・農業や自然の素晴らしさを体験できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の活動に協力してくださる方の後継者、人材確保が課題である。 			
備考				

参考URL

市町名 袋井市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

活動名	古新田サポーター			
実施箇所名	袋井市立浅羽東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校と地域の財(人・もの・こと)がつながり、連携して子どもたちを育てる		
	開催日数等	延べ50日程度	実施場所	諸井里山公園・学校・コミュセン等
	参加児童・生徒数	322人	ボランティア数	85人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や浅羽北コミュニティセンターを通じて、「古新田サポーター」を募集しているが、それ以前より、地域の方が授業や活動支援に協力的な地域である。 特に、「諸井里山の会」の方々には一年生を迎える会(4月:全校集会)の時に、挨拶と一緒に活動をしていただくことを例年行っている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 里山公園で行う一年生を迎える会には、会の方だけでなく、民生児童委員、自治会長も参加し、年度初めに地域ぐるみで児童との関りを大切にしている。 全校児童の前でお話ししていただくことで、子どもたちにとって地域の財が素晴らしいこと、大切にしようとする思いを培っている。 			
	連携先	浅羽東小学校、諸井里山の会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや登下校の見守りを通して、子どもたちが地域の方々にお世話になっている実感をもつようになり、心地よい挨拶ができるようになってきている。 今年度は5年生が、総合的な学習の時間に自分たちの里山公園を大切にしていこうと里山の会の方々と一緒に環境整備等を行った。里山の自然と地域のシニアの方々との交わりは、子どもたちの社会性や心の成長につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 組織化された当初から継続的に携わってくださっている方が多く、その方たちのマンパワーに頼り切っているが、高齢化が否めない。里山の会も主になっている方の減少など過渡期ではあるが、何とかつないでいきたいと考えてくださっている。 支援内容の精査と周知の仕方を工夫し、恒常的に継続できる組織体の形成を図る。 			
備考				
参考URL				

市町名 湖西市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 25 年度

立ち上げ経緯

地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、多様な形態で教員支援を可能とし、子どもと向き合う時間の拡充を図るため。

活動名	ふるさとの日			
実施箇所名	知波田小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の方々から、体験を通じて地域の歴史や産業等を学びます。		
	開催日数等	1日	実施場所	浜名湖、地元農場ほか
	参加児童・生徒数	135人	ボランティア数	30人
	<概要・特徴> 全校児童が5コースに分かれて、伝統芸能の役者体験や浜名湖の干潟観察、地元農場の小松菜の収穫体験、地元鉄工所の見学等の体験を通じて、地域の歴史や文化、産業などを地域の人と触れ合いながら学びました。			
	<活動上の工夫> コーディネーターさんが調整して、地域の様々な人たちの協力のもと、児童が普段の生活では体験できないようなことを経験できるように5コース準備しました。また、各コースがスムーズに進められるようにボランティアさんへの役割の調整をしました。			
連携先	付き添いボランティア、湖西歌舞伎保存会、地元農家、地元鉄工所 ほか			
活動の成果	学校で普段学べない地域のことを地域で教えていただき、児童たちも貴重な体験ができて喜んでいました。			
課題等	今後も継続していけるようにボランティア、受け入れ先を確保していくこと。			
備考				

参考URL

市町名 森町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

これまで愛校活動として、学校の美化や環境整備を行っていましたが、年数回の愛校活動だけでは、草が生い茂る部分を十分に管理することが難しい状況でした。そこで、地域の皆様と協力し、定期的に草刈りを行うボランティア活動を立ち上げました。

活動名	草刈りし隊			
実施箇所名	森小学校・森中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	児童、生徒が学校生活を快適に安全に過ごすために環境整備を行う。		
	開催日数等	年数回	実施場所	校庭、グラウンド等
	参加児童・生徒数	0 人	ボランティア数	20 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会や愛校活動や学校のニーズに合わせるなど、適宜必要時に、環境設備に協力し、児童、生徒が安全に授業や行事を行えるようにしている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の募集は、保護者宛の通信等を活用している。 暑い時期は、朝に短時間で活動(8:00~9:00) 中学校では、ライングループを作り、隊員相互の連絡に使っている。 「できることを、できる時間に、無理なく」をモットーに、活動日は隊員の最大数が参加できる日を選んだり、2日間のどちらかを選んで活動してもらったりしている。 スクールサポートスタッフの方と、連絡を取って、やる場所や片付けを調整している。 			
	連携先	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 「綺麗にしてくれて、ありがたい」と、職員や生徒たちに言われること。 児童、生徒が安全に校庭やグラウンド等で安全に活動できること。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 休日での活動になるので、学校職員には、周知されにくい。 暑い中での作業が多いので、安全に活動すること。 新しい参加者を増やすこと。 土の中に根を張った草の刈り込み、フェンスやネットがある地際の草を刈ること。 			
備考				
参考URL				

学校・家庭・地域連携協力推進事業等
実践事例集

発行 令和7年3月

発行者 静岡県教育委員会社会教育課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 054-221-3115

F A X 054-221-3362

E-mail kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp